



2025年7月1日 発表

中学生の親対象 子供に望むキャリアと 自身の働き方に関する調査

株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 栗木・望月・平沢 03-5269-8780 kouhousitu@aidem.co.jp

調査担当 / 小杉・古橋

目次

調査概要	・・・・・・・・	p. 3
1 仕事の充実度	・・・・・・・・	p. 4
2 仕事の捉え方	・・・・・・・・	p. 6
3 家族との会話の内容	・・・・・・・・	p. 7
4 コロナ禍前と比較した就労環境変化	・・・・・・・・	p. 8
5 親の仕事への興味や関心	・・・・・・・・	p. 12
6 親の働く姿を見せることの是非	・・・・・・・・	p. 13
7 子供の進路選択や働き方に対する考え	・・・・・・・・	p. 14
8 子供の進路選択や働き方に対する考え①専攻について 理系か文系か	・・・・・・・・	p. 15
9 子供の進路選択や働き方に対する考え②学歴について 高学歴を望むか	・・・・・・・・	p. 16
10 子供の進路選択や働き方に対する考え③職業について やりたい仕事か安定した仕事か	・・・・・・・・	p. 17
11 子供の進路選択や働き方に対する考え④専門性について ゼネラリストかスペシャリストか	・・・・・・・・	p. 18
12 子供の進路選択や働き方に対する考え⑤労働時間と収入について 労働時間が長く収入が多い仕事か収入は少ないが労働時間が短い仕事か	・・・・・・・・	p. 19
13 子供の進路選択や働き方に対する考え⑥転職について すぐに転職しても構わないかある程度の期間は働き続けるべきか	・・・・・・・・	p. 20
14 子供の進路選択や働き方に対する考え⑦社会的地位について 社会的地位の高さを気にするか	・・・・・・・・	p. 21
15 子供の進路選択や働き方に対する考え⑧会社の知名度 会社の知名度を気にするか	・・・・・・・・	p. 22
16 子供の進路選択や働き方に対する考え⑨勤務地について 親元の近くで働いてほしいか	・・・・・・・・	p. 23
17 子供の進路選択や働き方に対する考え⑩ワーク・ライフ・バランスについて 仕事優先か家庭優先か	・・・・・・・・	p. 24
18 子供に将来なってほしい職業	・・・・・・・・	p. 25
19 子供の就業観や夢の選び方は変わったか	・・・・・・・・	p. 27
18 家庭で行っているキャリア教育	・・・・・・・・	p. 28
19 子供の就業観や夢の選び方は変わったか	・・・・・・・・	p. 27
20 現時点でのキャリア教育の必要性	・・・・・・・・	p. 28
21 キャリア教育として有効なこと	・・・・・・・・	p. 29
22 「高校授業料無償化」による子供の進路への期待	・・・・・・・・	p. 30
23 「大学授業料無償化」による子供の進路への期待	・・・・・・・・	p. 31

調査概要

調査目的

親がわが子の将来や就職に対してどのような期待や考えを持っているのか、また、親自身の仕事や就労観について聴取した。

調査対象

中学校1年生から3年生の子供を持つ就労している男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2025年4月25日～27日

有効回答

1200名

回答者内訳

性別		全体	
回答者性別	子供性別	n	%
男性	男子	300	25.0
男性	女子	300	25.0
女性	男子	300	25.0
女性	女子	300	25.0
計		1200	100.0

年代	全体		男性		女性	
	n	%	n	%	n	%
30代	151	12.6	44	7.3	107	17.8
40代	730	60.8	322	53.7	408	68.0
50代以上	319	26.6	234	39.0	85	14.2
計	1200	100.0	600	100.0	600	100.0

就労状況	全体		男性		女性	
	n	%	n	%	n	%
正社員	751	62.6	537	89.5	214	35.7
自営業・フリーランス等の個人事業主	68	5.7	40	6.7	28	4.7
契約・嘱託社員	39	3.3	15	2.5	24	4.0
アルバイト・パート	19	1.6	1	0.2	18	3.0
派遣社員	323	26.9	7	1.2	316	52.7
計	1200	100.0	600	100.0	600	100.0

過去調査	全体		男性		女性	
	n	%	n	%	n	%
2022年調査	977	100.0	596	61.0	381	39.0
2019年調査	1010	100.0	599	59.3	411	40.7

両調査とも、中学校1年生から3年生の子供を持つ就労している男女を対象に聴取

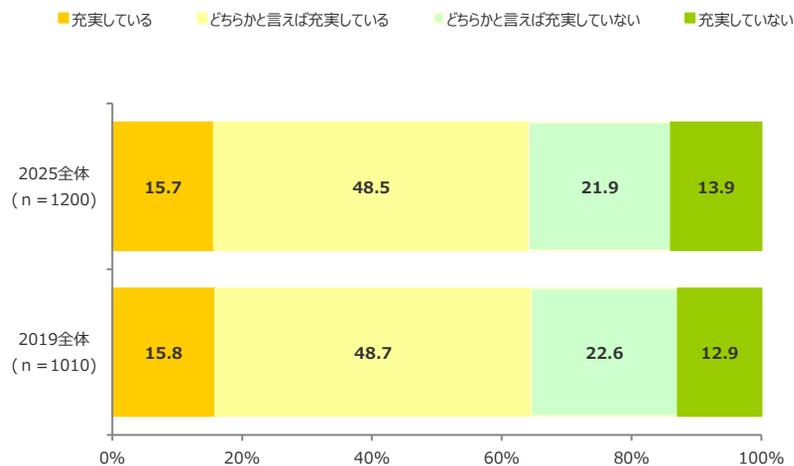
- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

仕事の充実度

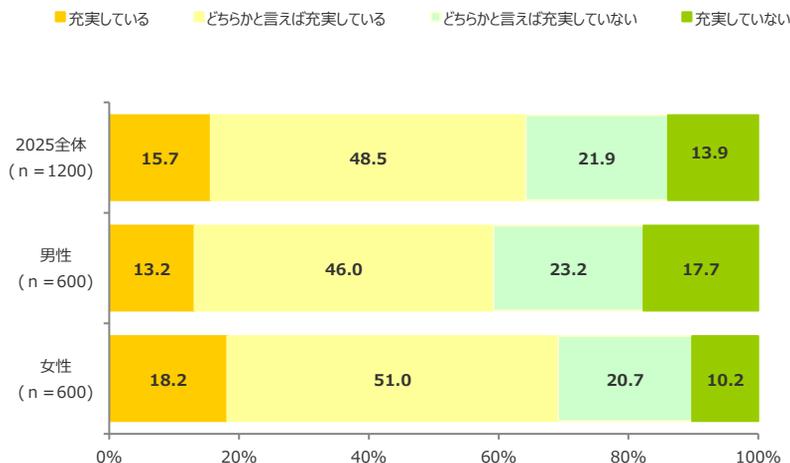
中学生の子供がいる男女に、現在の仕事の充実度を聞いたところ、「充実している」15.7%、「どちらかと言えば充実している」48.5%、「どちらかと言えば充実していない」21.9%、「充実していない」13.9%となった。「充実している・計（どちらかと言えば含む／以下同）」が64.2%、「充実していない・計（どちらかと言えば含む／以下同）」が35.8%である。なお、2019年にも同様の調査を行っており比較すると、2019年調査の「充実している・計」は64.5%で、2025年調査と大きな変化は見られなかった（図1.1）。

回答者の性別でみると、「充実している・計」の回答は、男性が59.2%、女性が69.2%で、女性の方が10.0ポイント高くなっていた（図1.2）。

【図1.1】仕事の充実度



【図1.2】仕事の充実度：回答者性別



さらに、現在の仕事の充実度について、そのように感じる理由を3つまで聞いた。

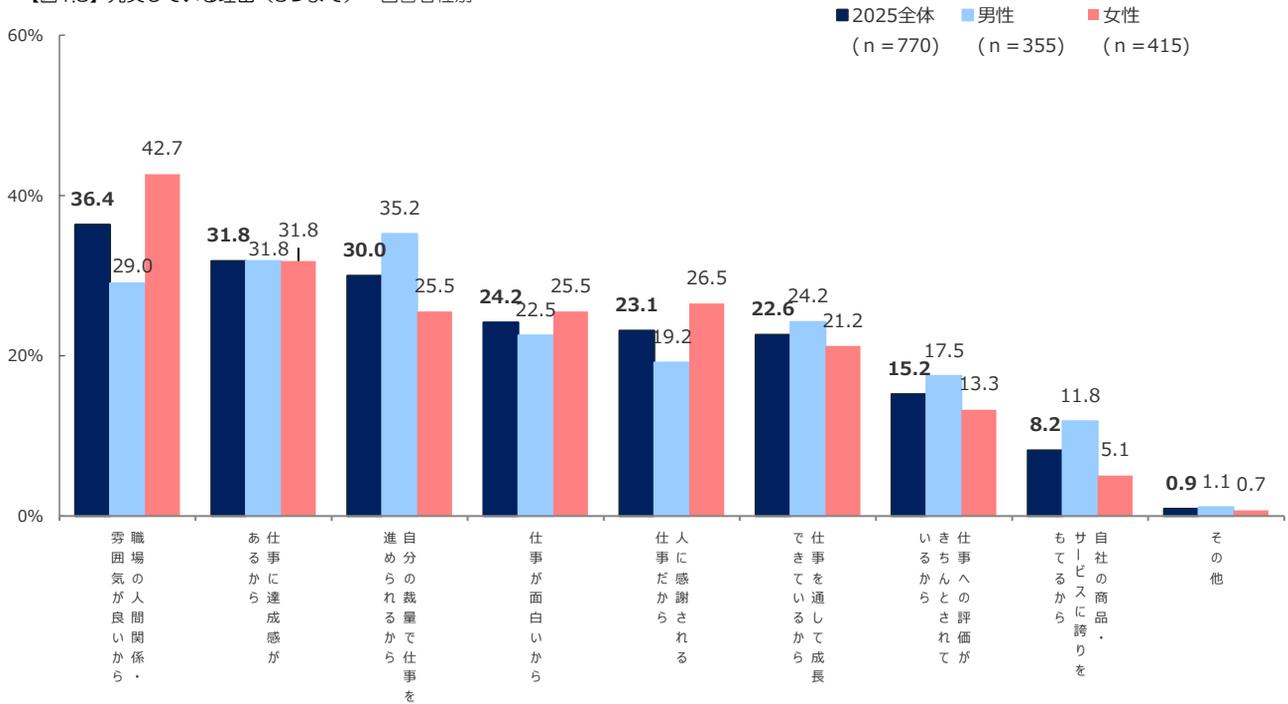
「充実している・計」の回答者がそのように感じている理由としては、「職場の人間関係・雰囲気が良いから」が36.4%で最多となった。次いで「仕事に達成感があるから」31.8%、「自分の裁量で仕事を進められるから」が30.0%だった。

回答者の性別でみると、男性は「自分の裁量で仕事を進められるから」「自社の商品・サービスに誇りをもてるから」が女性に比べて割合が高い。一方、女性は「職場の人間関係・雰囲気が良いから」が男性より13.7ポイント高くなっていた（図1.3）。

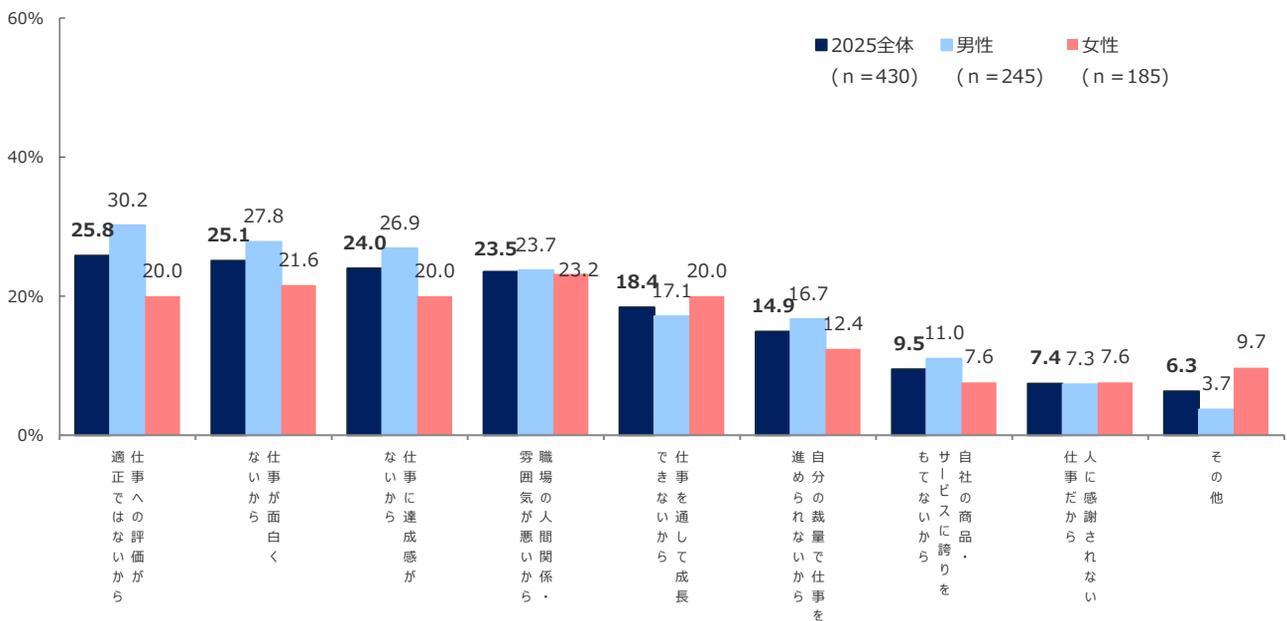
一方、「充実していない・計」の回答者がそのように感じている理由としては、「仕事への評価が適正ではないから」が最も多く25.8%、次いで「仕事が面白くないから」25.1%、「仕事に達成感がないから」24.0%となっている。

回答者の性別でみると、男性は「仕事への評価が適正ではないから」が女性に比べて10.2ポイント高くなっているのが特徴的である（図1.4）。

【図1.3】 充実している理由（3つまで）：回答者性別



【図1.4】 充実していない理由（3つまで）：回答者性別



2 仕事の捉え方

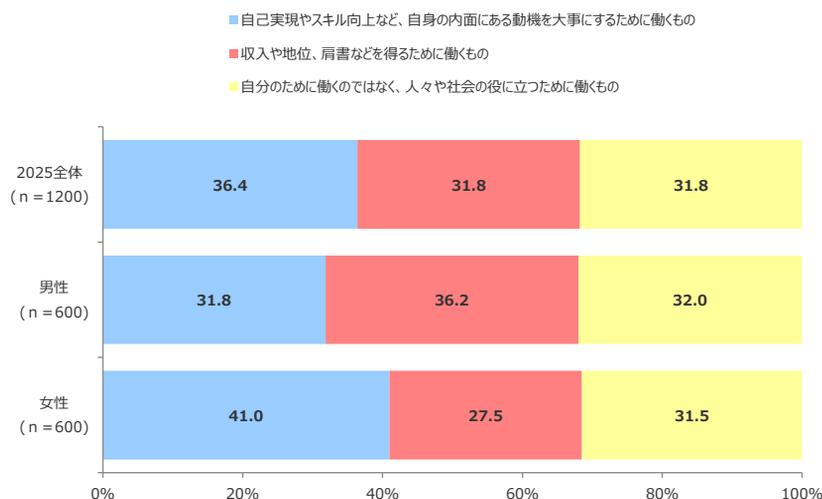
中学生の子供がいる男女に、仕事の捉え方について、3つの選択肢の中から自身の考えに最も近いものを聞いた。「自己実現やスキル向上など、自身の内面にある動機を大事にするために働くもの（内因的仕事観／以下同）」が最も多く、36.4%となった。次いで、「収入や地位、肩書などを得るために働くもの（功利的仕事観／以下同）」と「自分のために働くのではなく、人々や社会の役に立つために働くもの（規範的仕事観／以下同）」が同率で31.8%という結果になっている（図2.1）。

回答者の性別でみると、男性は「功利的仕事観」が36.2%、女性は「内因的仕事観」が41.0%で最も多くなっていた（図2.1）。

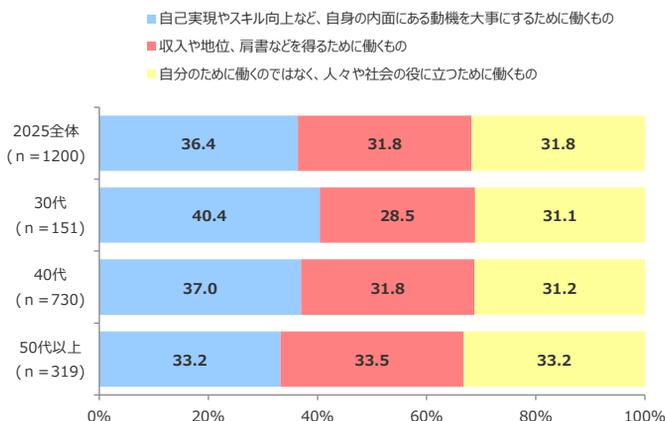
年代別に見ると、「内因的仕事観」は年代が低いほど割合が高く、「功利的仕事観」は年代が高いほど割合は高くなっていく。「規範的仕事観」は、年代で大きな差はないが、50代以上で若干高くなっていた（図2.2）。

「1 仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」人は「内因的仕事観」が最も多く42.5%、仕事が「充実していない」人は「規範的仕事観」が最も多く41.2%であった。「内因的仕事観」を充実度によって比べると、「充実している」人は「充実していない」人より16.9ポイント高くなっていた。“自身の内面にある動機を大事にして働くこと”が仕事の充実度を高めているのかもしれない（図2.3）。

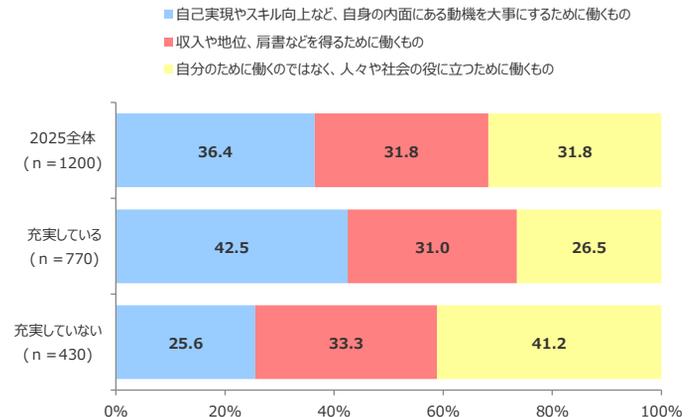
【図2.1】仕事の捉え方：回答者性別



【図2.2】仕事の捉え方：年代別



【図2.3】仕事の捉え方：仕事の充実度別



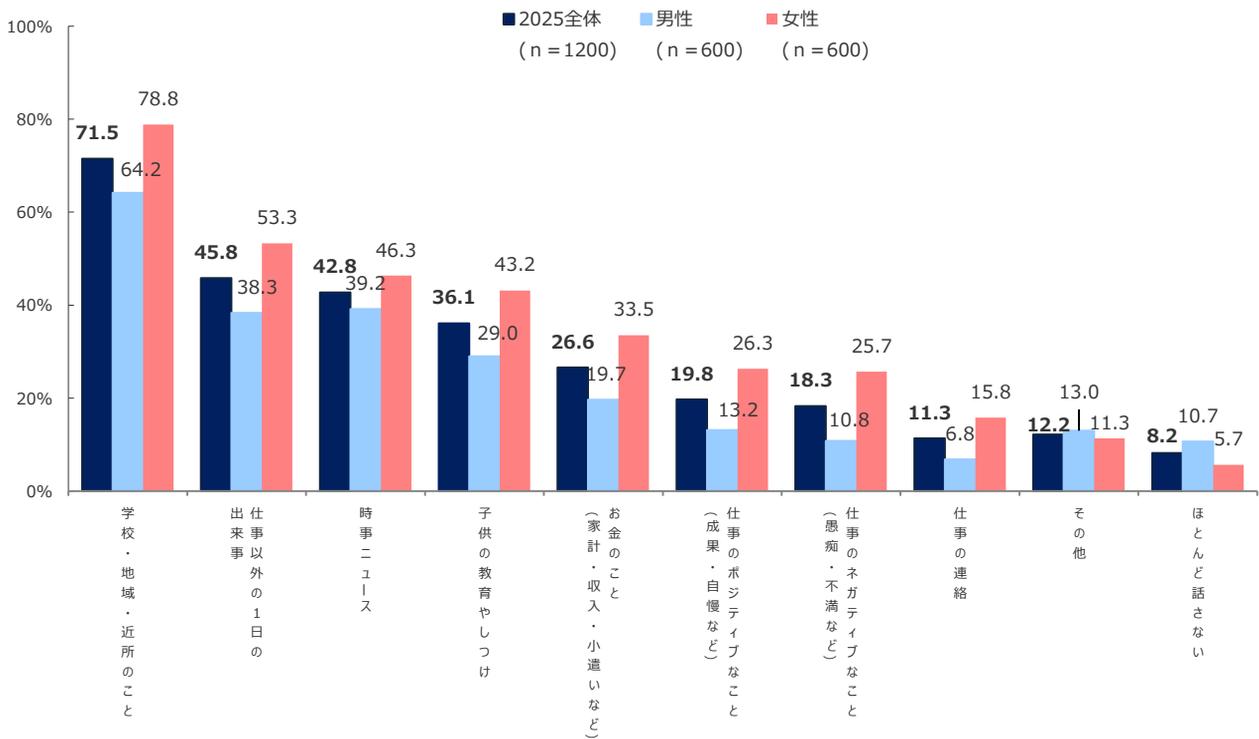
家族との会話の内容

中学生の子供がいる男女に、子供がいる場で家族で話す内容はどのようなものが多いかを聞いた。

最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で71.5%、次いで「仕事以外の1日の出来事」45.8%、「時事ニュース」42.8%、「子供の教育やしつけ」36.1%となっている。

回答者の性別で見ると、「ほとんど話さない」「その他」を除いたすべての項目で、男性より女性の方が回答割合が高くなっている。「仕事の連絡」「時事ニュース」を除き回答割合は10ポイント以上の開きがあり、中でも「仕事以外の1日の出来事」は男性38.3%に対して女性53.3%で、15.0ポイントの開きがあった。子供と比較的接触機会が多い母親の方が、さまざまな話題で話をしているようだ（図3）。

【図3】 家族との会話の内容：回答者性別



コロナ禍前と比較した就労環境の変化

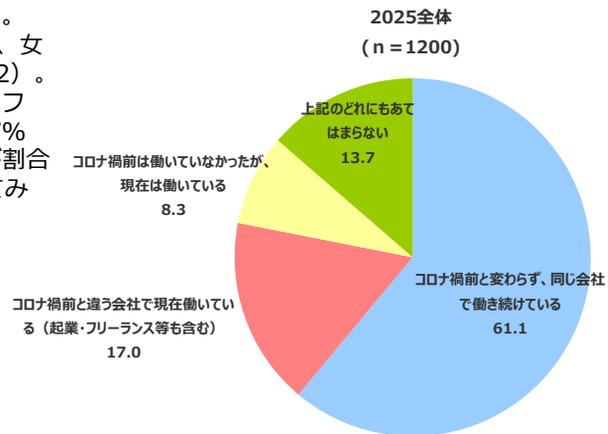
中学生の子供がいる男女に、コロナ禍前（2019年以前）と比較して、働き方や仕事の環境は変化しているかを聞いた。まず、当時から現在にかけての就労状況は、「コロナ禍前と変わらず、同じ会社で働き続けている」が61.1%と圧倒的に多い。これに、「コロナ禍前と違う会社で現在働いている（起業・フリーランス等も含む）」が17.0%と続く（図4.1）。

「コロナ禍前と変わらず、同じ会社で働き続けている」と「コロナ禍前と違う会社で現在働いている（起業・フリーランス等も含む）」の回答者に、コロナ禍前（2019年以前）と比較して、働き方や仕事の環境は変化しているかを聞くと「変化あり」が53.4%、「変化なし」が46.6%となった。

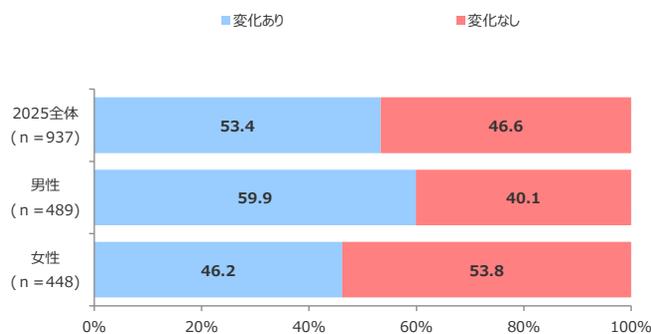
回答者の性別でみると、「変化あり」は男性が59.9%、女性が46.2%で、男性の方が割合が高くなっている（図4.2）。

就労状況別にみると、「変化あり」は正社員/自営業・フリーランス等の個人事業主が58.0%、非正規雇用が41.7%で、正社員/自営業・フリーランス等の個人事業主の方が割合が高くなっている（図4.3）。これをさらに性別で分けてみても傾向は変わらない（図4.4、図4.5）。

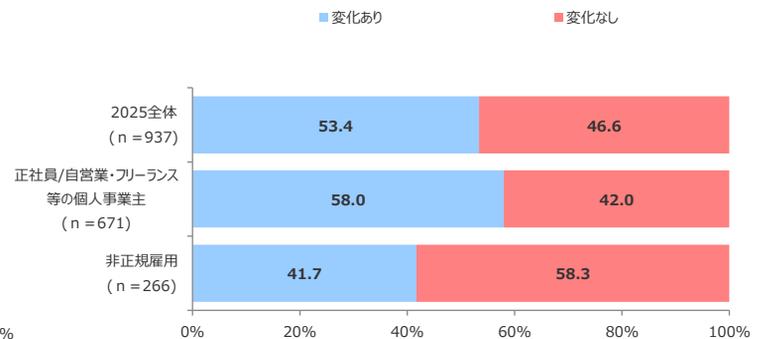
【図4.1】コロナ禍前と現在の就労状況



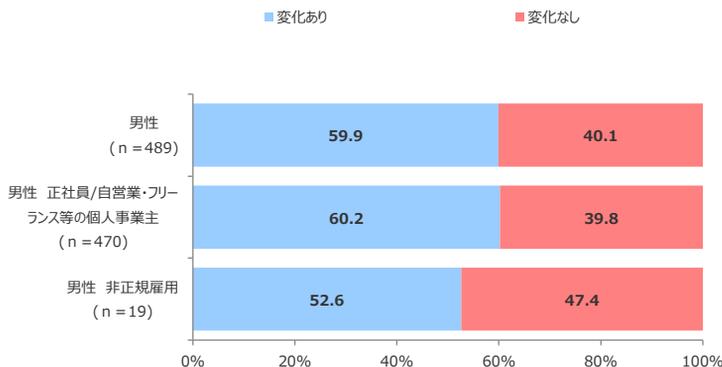
【図4.2】コロナ禍前と比較した就労環境の変化：回答者性別



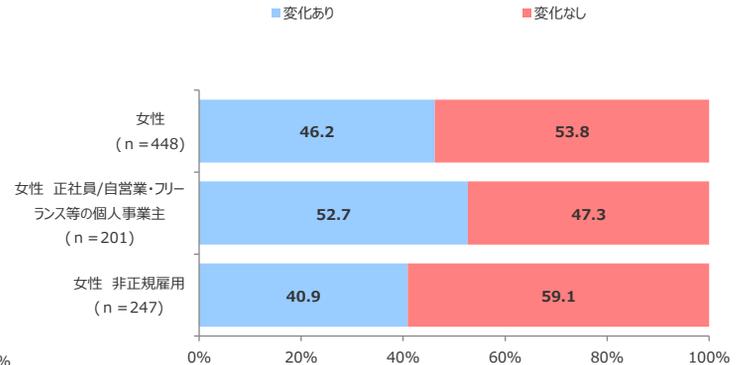
【図4.3】コロナ禍前と比較した就労環境の変化：就労状況別



【図4.4】コロナ禍前と比較した就労環境の変化：男性・就労状況別



【図4.5】コロナ禍前と比較した就労環境の変化：女性・就労状況別

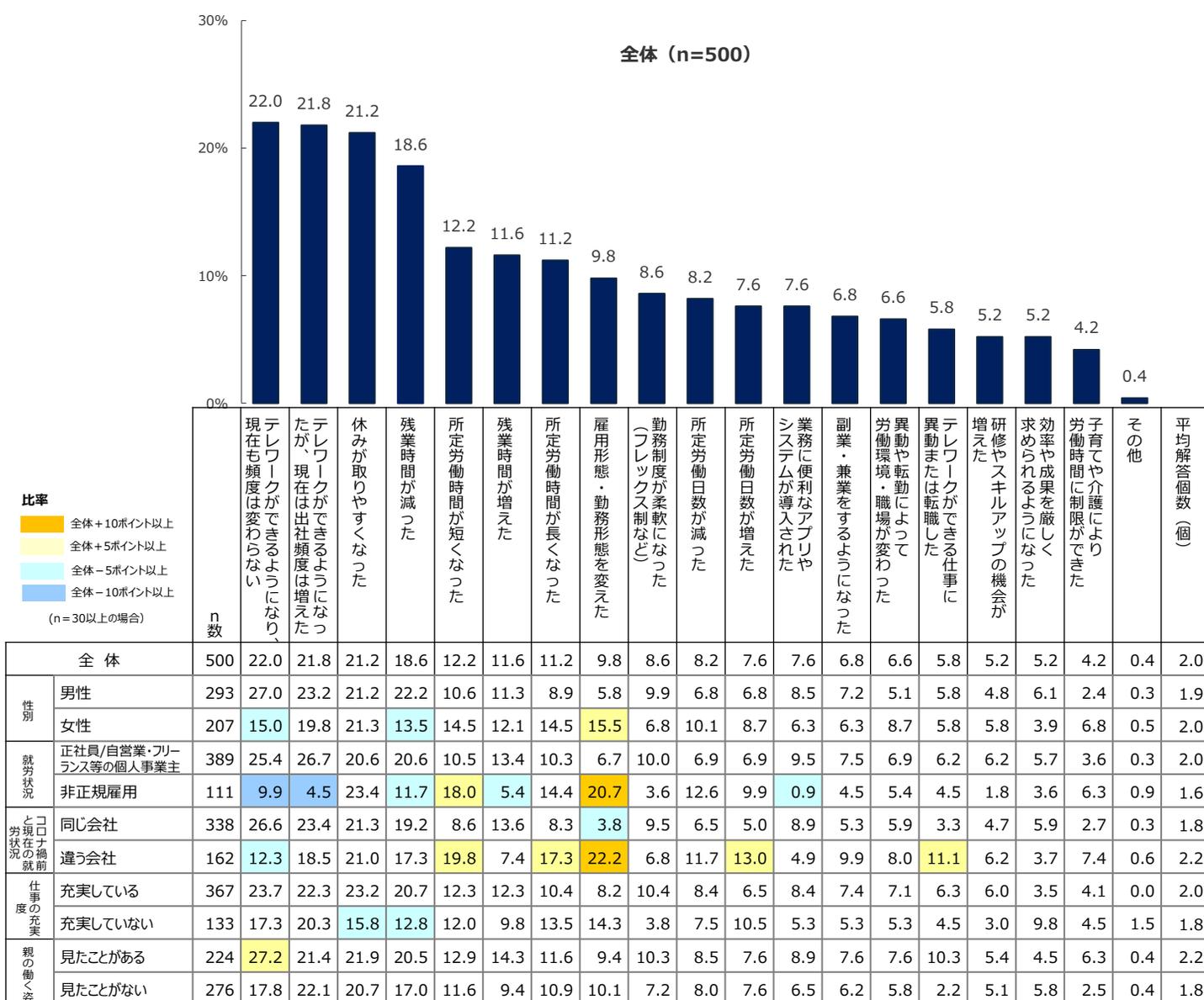


さらに「変化あり」の回答者について具体的にどのような変化があったのかを集計した。「テレワークができるようになり、現在も頻度は変わらない」が22.0%で最も多く、次いで「テレワークができるようになったが、現在は出勤頻度は増えた」が21.8%、「休みが取りやすくなった」が21.2%、「残業時間が減った」18.6%と続く(図4.6)。

回答者の性別でみると、男性は「テレワークができるようになり、現在も頻度は変わらない」が27.0%で最も多く、女性は「休みが取りやすくなった」が最も多く21.3%だった(図4.6)。

仕事の充実度別でみると、全体計で上位となった「テレワークができるようになった(現在も頻度は変わらない/現在は出勤頻度は増えた)」「休みが取りやすくなった」「残業時間が減った」は、仕事が「充実していない」者よりも「充実している」者の回答割合が高い。こういった環境変化が、仕事が「充実している」と感じられる一因にもなっているようだ(図4.6)。

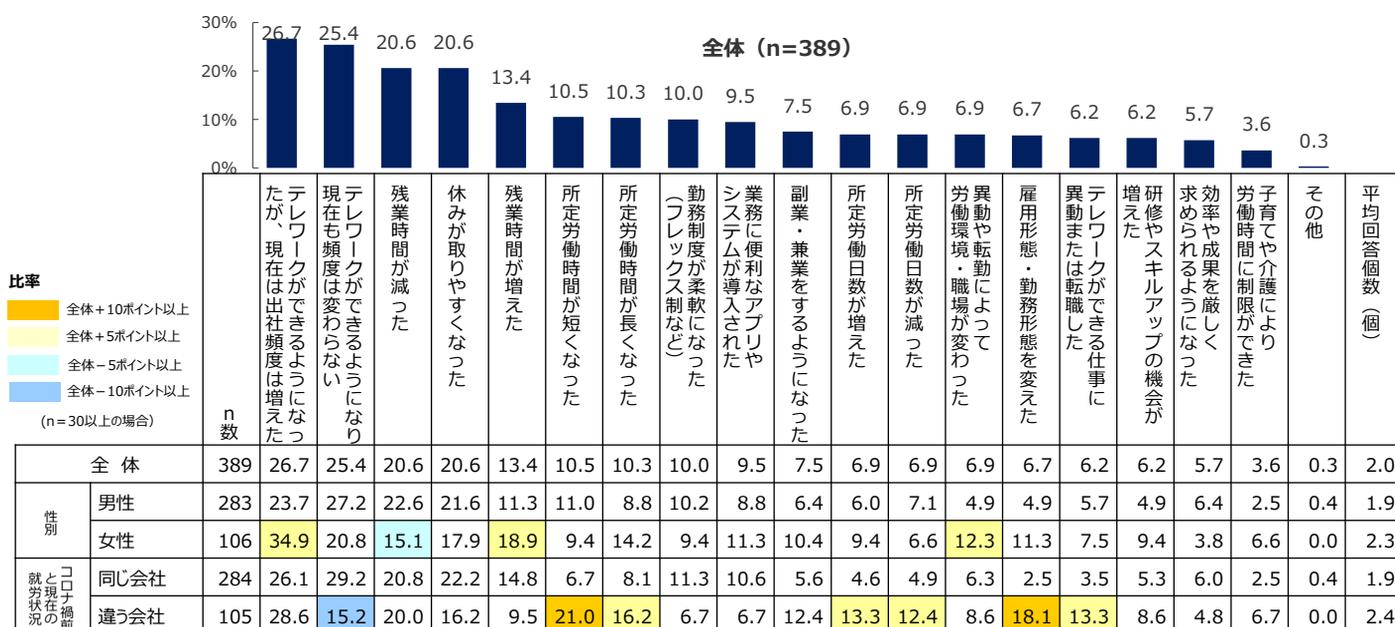
【図4.6】コロナ禍前と比較した就労環境の具体的変化



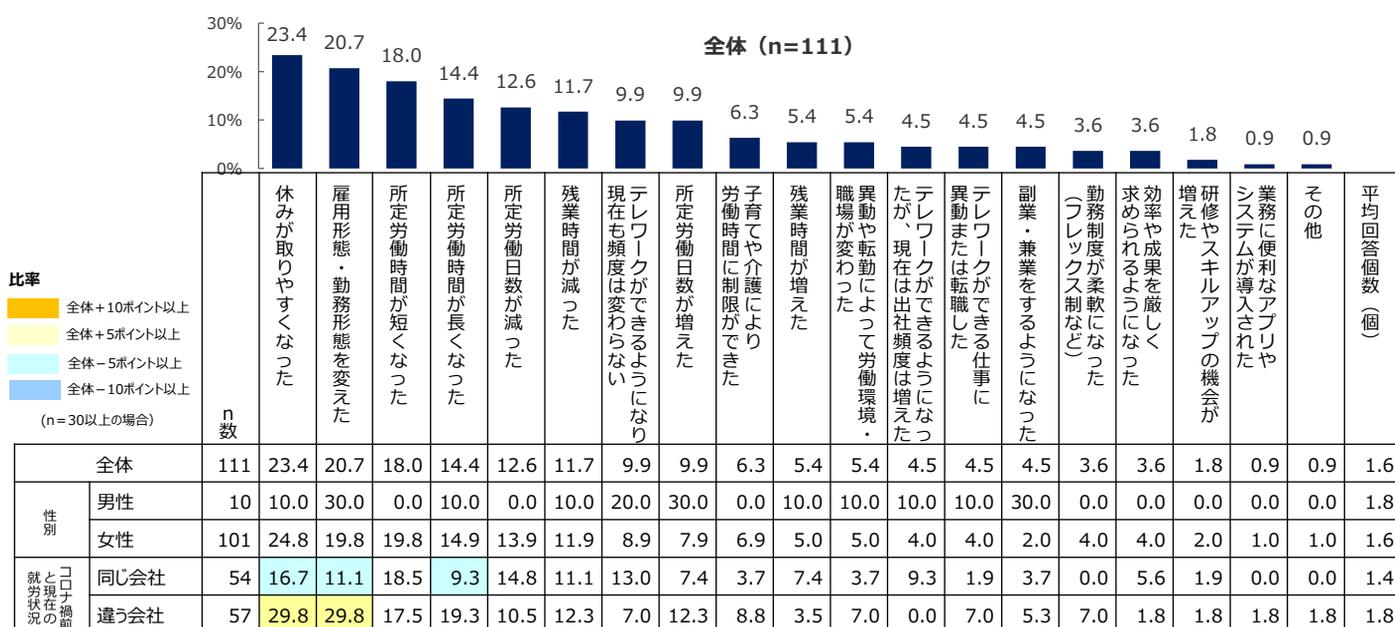
また、「正社員/自営業・フリーランス等の個人事業主」のみの集計でみると、「テレワークができるようになったが、現在は出勤頻度は増えた」が最も多く26.7%、次いで「テレワークができるようになり、現在も頻度は変わらない」が25.4%と続く。コロナ禍前と現在の就労状況別にみると、コロナ禍前と現在が「違う会社」の回答者は、コロナ禍前から「同じ会社」に勤めている回答者に比べ、「所定労働時間が短くなった」や「雇用形態・勤務形態を変えた」の回答割合が高くなっていた（図4.7）。

「非正規雇用」のみの集計でみると、「休みが取りやすくなった」が最も多く23.4%、次いで「雇用形態・勤務形態を変えた」20.7%、「所定労働時間が短くなった」18.0%となっていた。コロナ禍前と現在の就労状況別にみると、コロナ禍前と現在が「違う会社」の回答者は、コロナ禍前から「同じ会社」に勤めている回答者に比べ、「休みが取りやすくなった」や「雇用形態・勤務形態を変えた」の回答割合が高くなっている（図4.8）。

【図4.7】 コロナ禍前と比較した就労環境の具体的変化：現在の就労状況が正社員/自営業・フリーランス等の個人事業主のみ集計



【図4.8】 コロナ禍前と比較した就労環境の具体的変化：現在の就労状況が非正規雇用のみ集計



【コロナ禍を経た働き方に対する考えの変化／自由回答の一部】

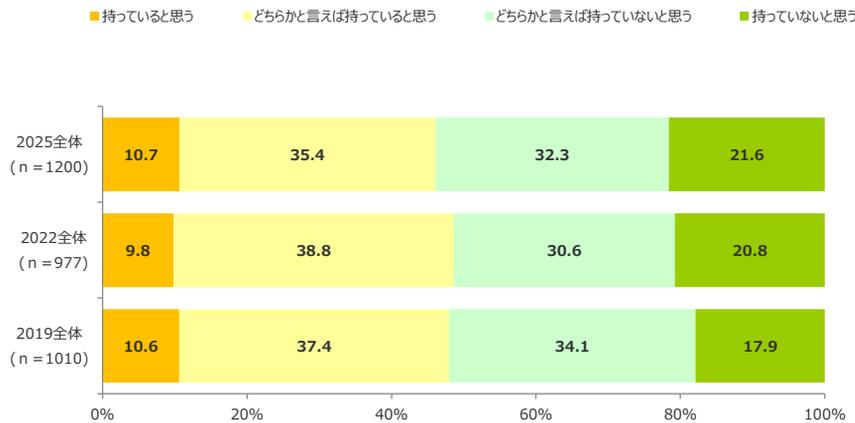
- 以前よりリモートワークがしたかったので、コロナ禍でリモートワークが定着したことがとても有り難く思っている。今もリモートワークを続けており、仕事になんの支障もなくこなせているので続けたいと思う。(40代女性)
- コロナ禍から研修がzoomになったり出張が少なくなった。段取り良く仕事すれば、ダラダラ残業しなくて良いことに気づき、時間内だけで工夫して仕事をこなすようになった。(40代女性)
- 在宅勤務が一般的になり同僚とのやり取りが減った分、様々なITツールが増えたので業務効率は上がった気がする。(40代男性)
- テレワークで会議がペーパーレスになるなどし、効率化の意識が一般化した。(40代女性)
- 会社に行くことだけが仕事ではなく、いろいろな働き方があることを知った。商談についてはオンラインでも全然普通に行えることを認識した。(50代男性)
- 職場に縛られない働き方もあることを学べた。また対面でないとできない仕事があることも分かった。(50代女性)
- 場所に縛られずに仕事ができることがわかった。これにより、心に余裕を持って仕事ができるようになった。(50代男性)
- 時間をかけて仕事をするのではなく、自分の心身の健康も充実させながら、効率よく仕事をしたい。(40代男性)
- 家族との時間を大切にするようになった、仕事の勤務時間に対する考え方などもシビアになった。(40代男性)
- 仕事優先というよりもプライベートとのバランスを考えるようになりました。どちらかと言うと、ややプライベートを優先する方向へ。(50代女性)
- コロナ禍以降フレックスが導入されたことで、プライベート(家庭や子供の学校行事など)との両立がしやすくなったので、より働きやすくなった。(40代女性)
- 子供の学校・自宅近くを勤務地にしたいと思った。有事の際にすぐかけつけられるように。(50代女性)
- 家族との時間はかけがえのない時間だと考えるようになった。そのときやりたい事をやらないといけないと思った。(40代男性)
- 物価高になり、世間も会社も節約志向になり、会社では、こなせない量の業務をふられて、サービス残業が増えた。(50代女性)
- テレワークが出来ていたのに廃止になり、今の働き方は無意味だと感じる。(40代女性)
- ワークライフバランスを大切にしたいと思うようになったし、スクラップアンドビルドを大胆に進めていいのではないかと考えるようになった。(50代男性)
- いろいろな働き方ができるようになったこともあり、昇進を考えるようになった。(40代女性)
- 在宅勤務可能な仕事がとても増えたので、転職の際に希望しやすいと感じた。(40代女性)
- 今の会社だとテレワークができない職種なので、今後転職する時は職種を考えようと思った。(40代女性)
- コロナ前は、多少の体調不良であれば休まずに出社していたのが、コロナ後はまず休んで体調を整えるという考えに変わった。(40代女性)
- 調子が悪い時は上司に相談して早退や時間をずらして出勤するようになった。(50代男性)
- できることをできる時に！後回しにするといつ死ぬかわからないから後悔しないように思い立ったら動く。(30代女性)
- 様々な業界で不安定なので、人々はより色んな仕事に就いても良いのではないかと思う。離職経験が多くても会社の事情もあるからそれだけでレッテルを貼ったりしなくても良いのではないかと。(30代女性)

親の仕事への興味や関心

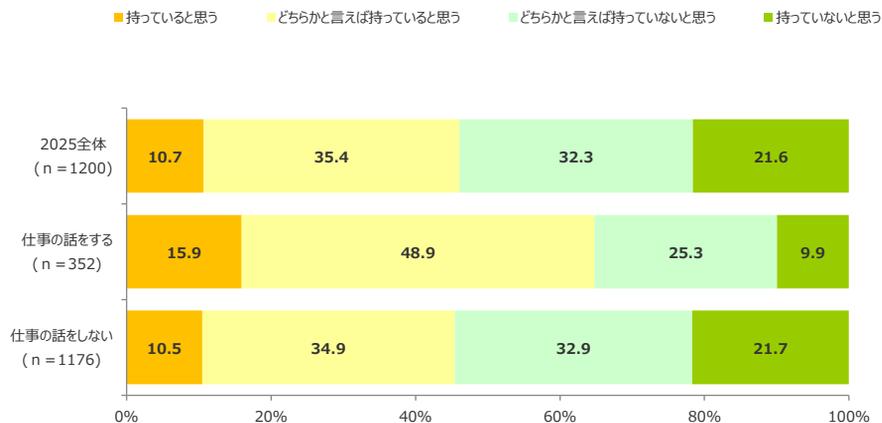
中学生の子供がいる男女に、子供が親の仕事について話をしたり質問をするなど興味や関心を持っていると思うかを聞いた。全体では、「持っていると思う」10.7%、「どちらかと言えば持っていると思う」35.4%となり、合わせて46.1%の回答者が、子供は親の仕事への興味や関心を「持っていると思う・計/以下同」と回答している（図5.1）。なお、2019年、2022年にも同様の調査を行っており、子供は親の仕事への興味や関心を「持っていないと思う」との回答は、2019年調査17.9%、2022年調査20.8%、2025年調査21.6%と年々割合が高くなっている（図5.1）。

また、「3 家族との会話の内容」について、「仕事のポジティブなこと（成果・自慢など）」「仕事のネガティブなこと（愚痴・不満など）」「仕事の連絡」のいずれかを選択している回答者を「仕事の話をする」、それ以外の者を「仕事の話をしていない」に分けて関係をみた。「仕事の話をする」家庭の方が、「仕事の話をしていない」家庭と比べて、子供が親の仕事への興味や関心を「持っていると思う・計」と回答した割合が高くなっている。具体的には、「持っていると思う・計」は「仕事の話をする」家庭では64.8%、「仕事の話をしていない」家庭では45.4%となり、19.4ポイントの開きがあった（図5.2）。家庭内で仕事の話をすることで、子供は親の仕事への興味や関心を持つようだ。

【図5.1】親の仕事への興味や関心



【図5.2】親の仕事への興味や関心：家族との会話の内容別



6

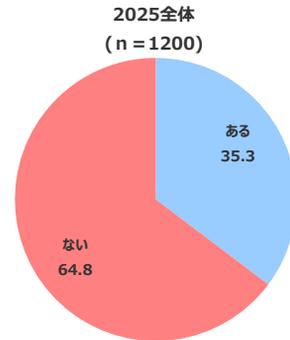
親の働く姿を見せることの是非

中学生の子供がいる男女に、自身の働く姿を子供に見せたことがあるかを聞いたところ、「ある」が35.3%、「ない」が64.8%となった（図6.1）。

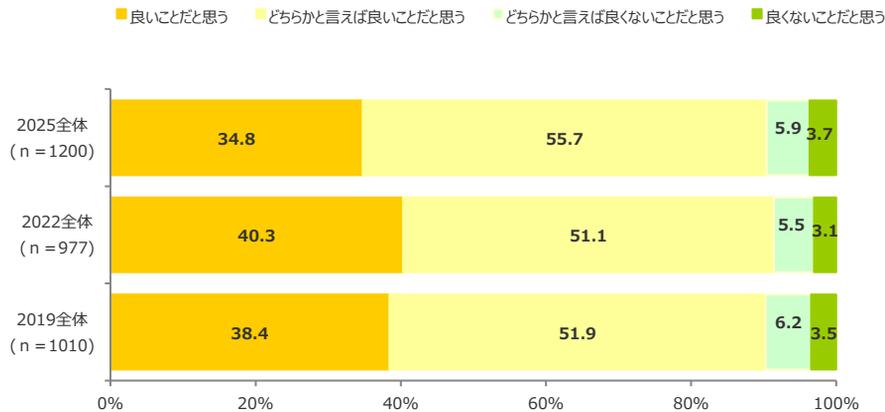
【図6.1】働く姿を子供に見せたことがあるか

また、自身の働く姿を子供に見せることは良いことだと思うかを聞いたところ、「良いことだと思う」が34.8%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が55.7%で、合わせて90.5%が「良いことだと思う・計/以下同」と肯定的に捉えていた。なお、2019年、2022年にも同様の調査を行っており、「良いことだと思う・計」は2019年調査90.3%、2022年調査91.4%で、大きな変化は見られなかった（図6.2）。

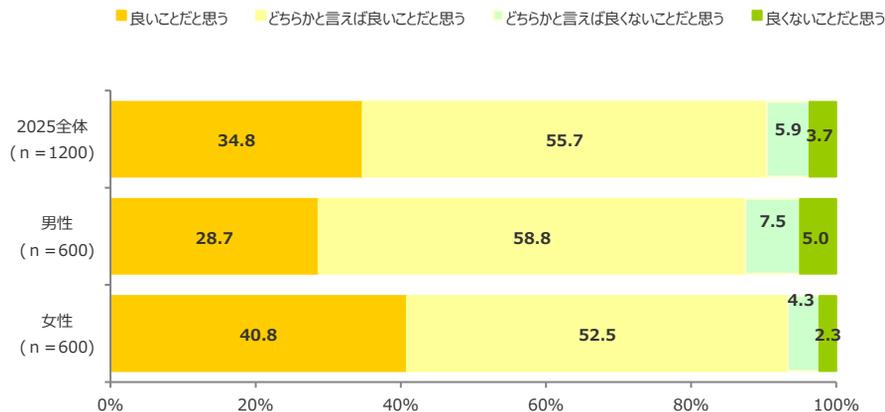
回答者の性別でみると、「良いことだと思う」の割合は男性28.7%、女性40.8%と女性の方が12.1ポイント高くなっており、母親である女性の方が自身の働く姿を子供に見せることについてより強い肯定感がある（図6.3）。



【図6.2】親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図6.3】親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：回答者性別

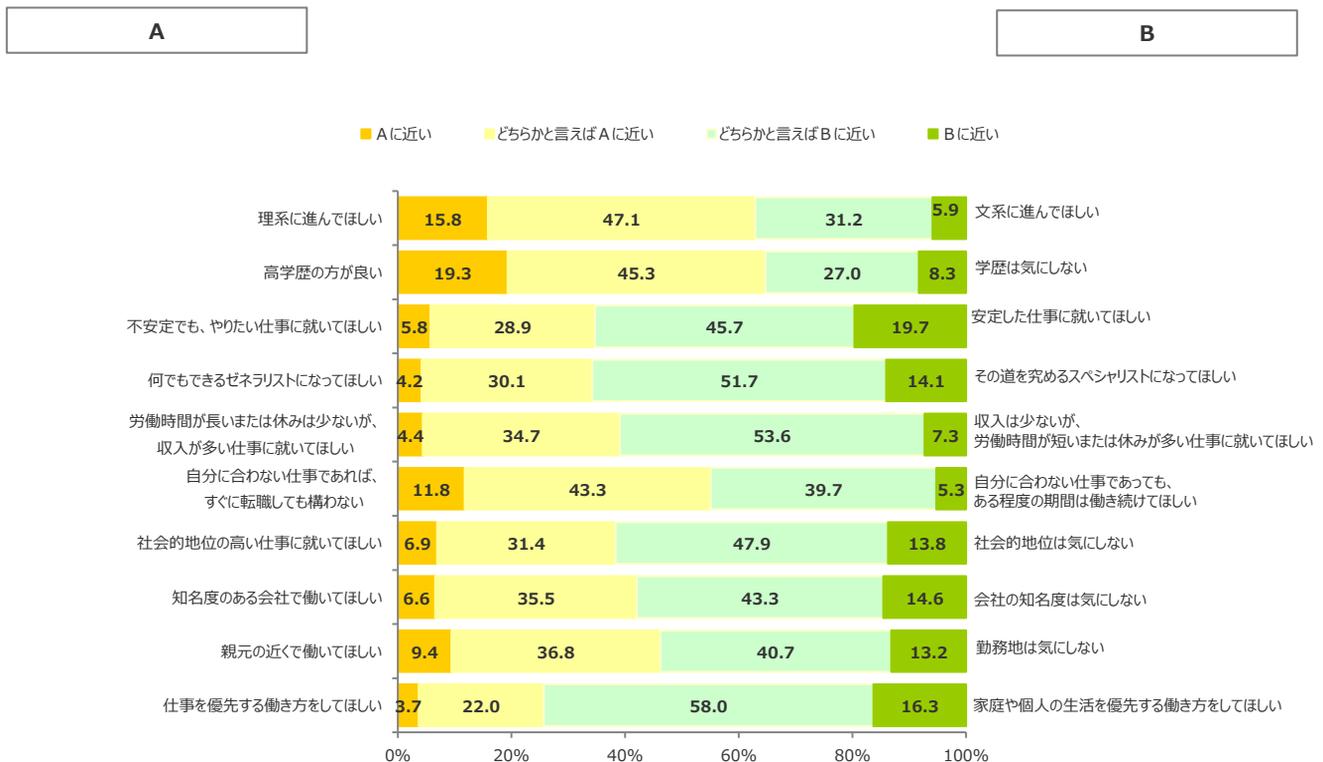


子供の進路選択や働き方に対する考え

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対してどのように考えているかを聞いた。具体的には、「専攻」「学歴」「職業」「専門性」「労働時間と収入」「転職」「社会的地位」「会社の知名度」「勤務地」「ワーク・ライフ・バランス」の10項目について、それぞれ項目内でAとBのどちらの考えに近いのかを4尺度で聞いている（文章中「どちらかと言えば」をAもしくはBに含めて表記）。

「専攻」については、「理系に進んでほしい」の方が多く計62.9%。
「学歴」については、「高学歴の方が良い」の方が多く計64.6%。
「職業」については、「安定した仕事に就いてほしい」の方が多く計65.4%。
「専門性」については、「その道を究めるスペシャリストになってほしい」の方が多く計65.8%。
「労働時間と収入」については、「収入は少ないが、労働時間は短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」の方が多く計60.9%。
「転職」については、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職して構わない」の方が多く計55.1%。
「社会的地位」については、「社会的地位は気にしない」の方が多く計61.7%。
「会社の知名度」については、「会社の知名度は気にしない」の方が多く計57.9%。
「勤務地」については、「勤務地は気にしない」の方が多く計53.9%。
「ワーク・ライフ・バランス」については、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」の方が多く計74.3%であった（図7）。

【図7】子供の進路選択や働き方に対する考え（全体計）



理系か文系か

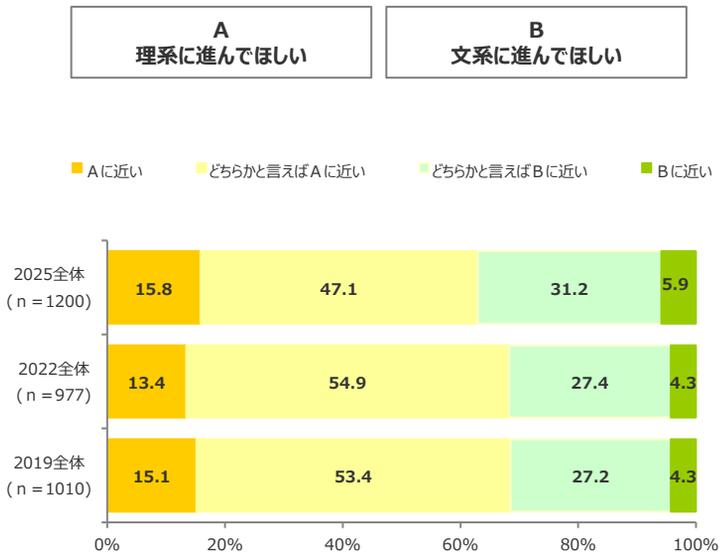
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、専攻について「理系に進んでほしい」のか「文系に進んでほしい」のかを聞いたところ、「理系に進んでほしい」15.8%、「どちらかと言えば理系に進んでほしい」47.1%、「どちらかと言えば文系に進んでほしい」31.2%、「文系に進んでほしい」5.9%となった。全体では「理系に進んでほしい・計（どちらかと言えば含む/以下同）」は62.9%で、過去調査と比較すると、直近2022年調査68.3%より5.4ポイント減少している（図8.1）。

子供の性別でみると、子供に「理系に進んでほしい・計」と考えている親は、男子で72.7%、女子で53.2%となり、男子の方が19.5ポイント高くなっている。過去調査と比較すると、「理系に進んでほしい・計」は男子で減少傾向になっている（図8.2）。

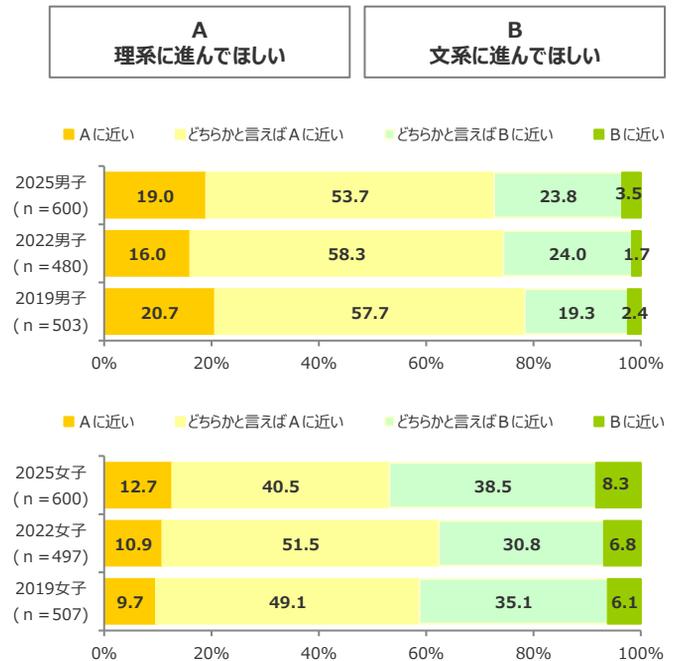
回答者の性別でみると、子供に「理系に進んでほしい・計」と考えているのは、男性（父親）が61.4%、女性（母親）が64.5%となり、母親の方が父親よりも回答割合が若干高かった（図8.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供に「理系に進んでほしい」と考えているのは、「女性/子供男子」が75.3%と最も多く、次いで「男性/子供男子」が70.0%だった（図8.4）。

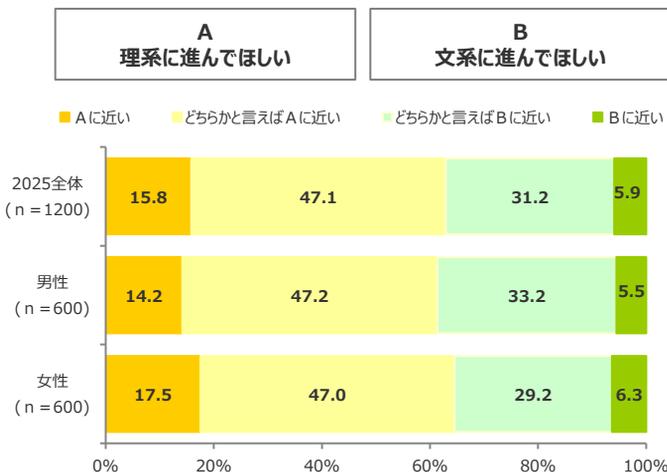
【図8.1】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か



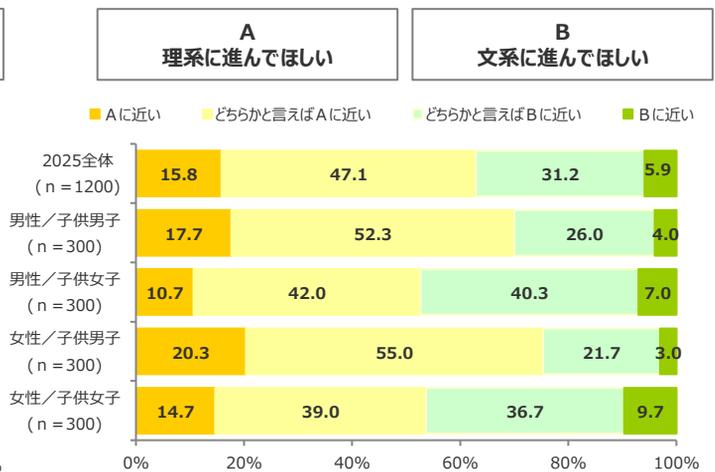
【図8.2】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か：子供性別・過去調査比較



【図8.3】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か：回答者性別



【図8.4】子供の進路選択や働き方に対する考え①理系か文系か：回答者性別×子供性別



高学歴を望むか

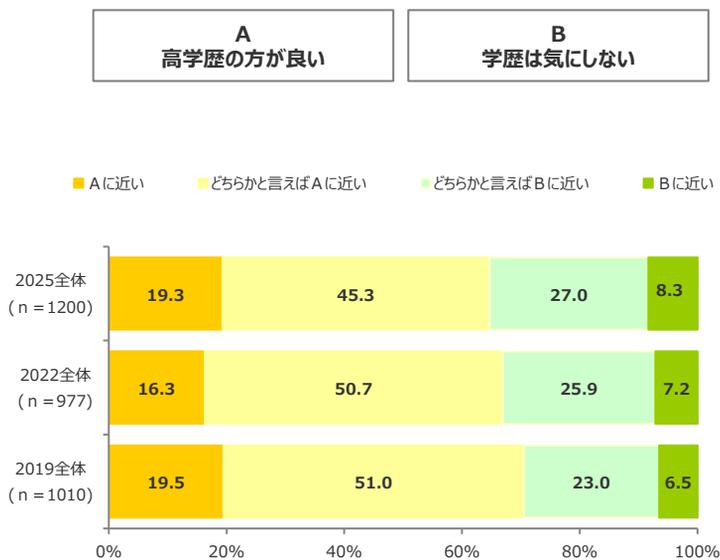
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、学歴について「高学歴の方が良い」のか「学歴は気にしない」のかを聞いたところ、「高学歴の方が良い」19.3%、「どちらかと言えば高学歴の方が良い」45.3%、「どちらかと言えば学歴は気にしない」27.0%、「学歴は気にしない」8.3%となった。全体では「高学歴の方が良い・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が64.6%で多数派となっているが、過去調査と比較すると年々減少傾向にあり、2019年調査の70.5%から5.9ポイントの減少となっている（図9.1）。

子供の性別でみると、子供は「高学歴の方が良い・計」と考えている親は、男子で66.6%、女子で62.6%だった。男子の方が4.0ポイント高く、女子よりも男子に高学歴を望む傾向がある。なお、過去調査と比較すると、「高学歴の方が良い・計」は男子で減少傾向になっている（図9.2）。

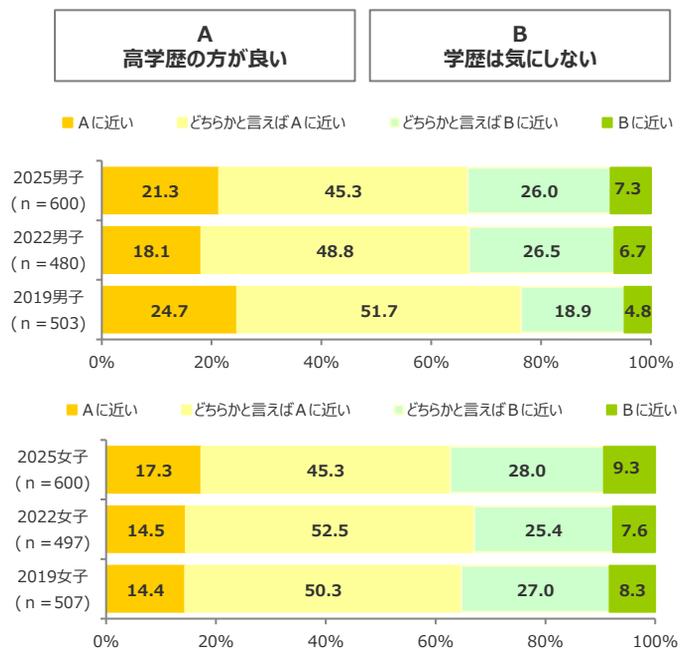
回答者の性別でみると、子供は「高学歴の方が良い・計」と考えているのは、男性（父親）が64.5%、女性（母親）が64.8%で、ほとんど差はない（図9.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供は「高学歴の方が良い・計」と考えているのは、「女性/子供男子」が67.7%と最も多く、次いで「男性/子供男子」が65.7%となっている（図9.4）。

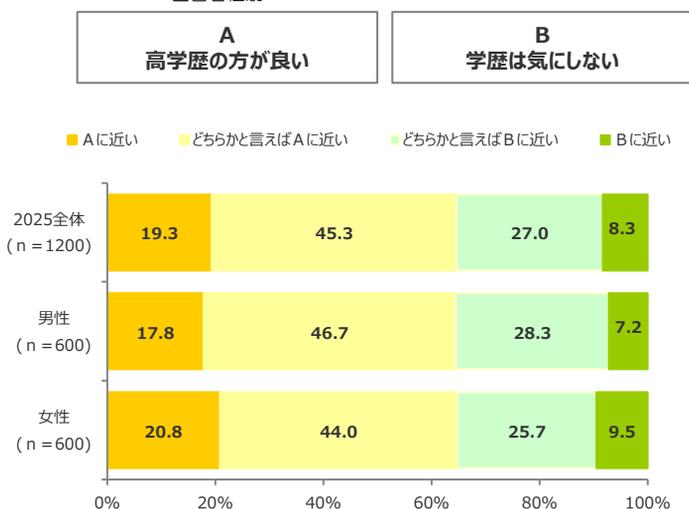
【図9.1】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか



【図9.2】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか
：子供性別・過去調査比較



【図9.3】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか
：回答者性別



【図9.4】子供の進路選択や働き方に対する考え②高学歴を望むか
：回答者性別×子供性別



子供の進路選択や働き方に対する考え③職業について やりたい仕事か安定した仕事か

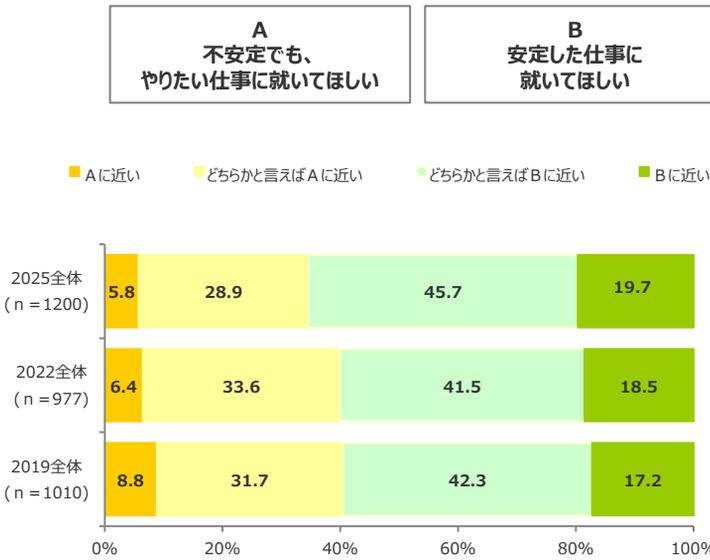
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、職業について「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」のか「安定した仕事に就いてほしい」のかを聞いたところ、「不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」5.8%、「どちらかと言えば不安定でも、やりたい仕事に就いてほしい」28.9%、「どちらかと言えば安定した仕事に就いてほしい」45.7%、「安定した仕事に就いてほしい」19.7%となった。全体では「安定した仕事に就いてほしい・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が65.4%で多数派となり、過去調査と比較すると年々増加傾向にある。2019年調査の59.5%から5.9ポイント増加している（図10.1）。

子供の性別で見ると、子供に「安定した仕事に就いてほしい・計」と考えている親は、男子で66.7%、女子で64.0%となり、ほとんど差がなかった。過去調査と比較すると、女子では「安定した仕事に就いてほしい・計」が増加傾向となっている（図10.2）。

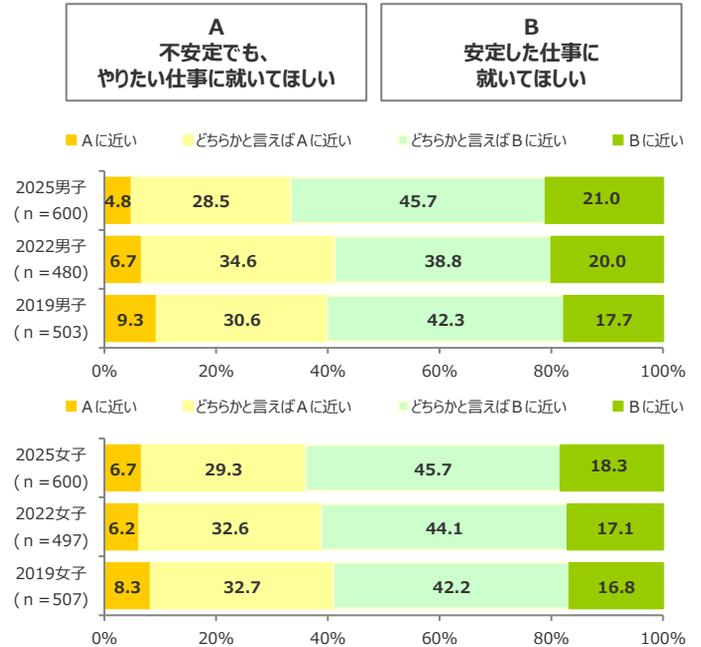
回答者の性別で見ると、子供に「安定した仕事に就いてほしい・計」と考えているのは、男性（父親）が63.6%、女性（母親）が67.0%となり、母親の方が父親よりも回答割合が若干高かった（図10.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせで見ると、子供に「安定した仕事に就いてほしい・計」と考えているのは、「女性/子供男子」が71.3%と最も多く、次いで「男性/子供女子」が65.4%となっている（図10.4）。

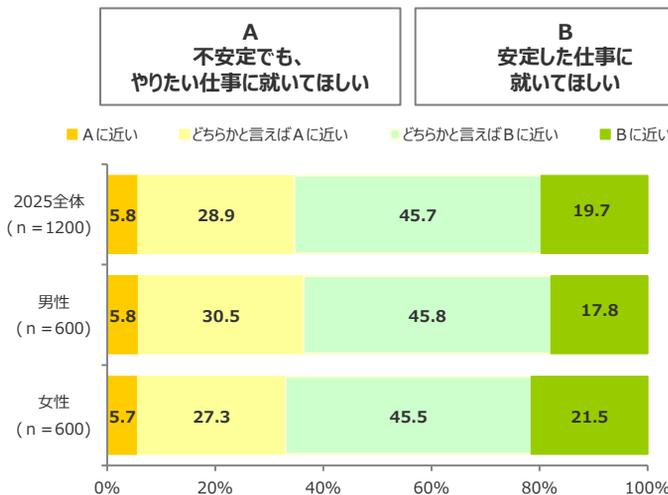
【図10.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
③やりたい仕事か安定した仕事か



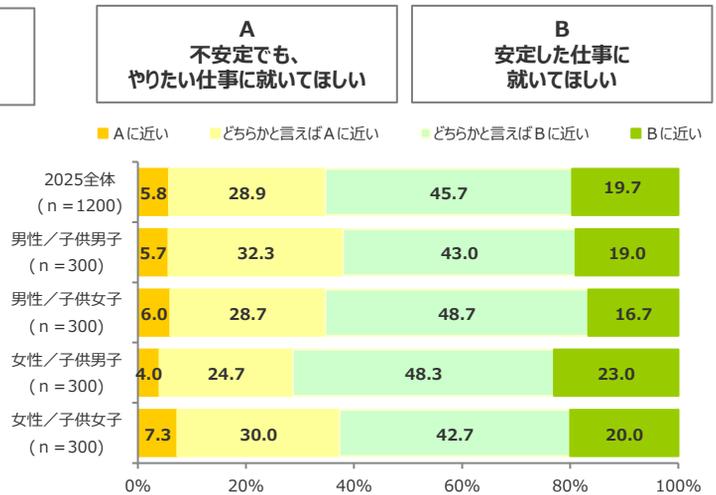
【図10.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
③やりたい仕事か安定した仕事か：子供性別・過去調査比較



【図10.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
③やりたい仕事か安定した仕事か：回答者性別



【図10.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
③やりたい仕事か安定した仕事か：回答者性別×子供性別



ゼネラリストかスペシャリストか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、専門性について「何でもできるゼネラリストになってほしい」のか「その道を探めるスペシャリストになってほしい」のかを聞いたところ、「何でもできるゼネラリストになってほしい」4.2%、「どちらかと言えば何でもできるゼネラリストになってほしい」30.1%、「どちらかと言えばその道を探めるスペシャリストになってほしい」51.7%、「その道を探めるスペシャリストになってほしい」14.1%となった。「その道を探めるスペシャリストになってほしい・計（どちらかと言えば含む／以下同）」は65.8%で、過去調査と比較すると、直近2022年調査61.5%より4.3ポイント増加している（図11.1）。

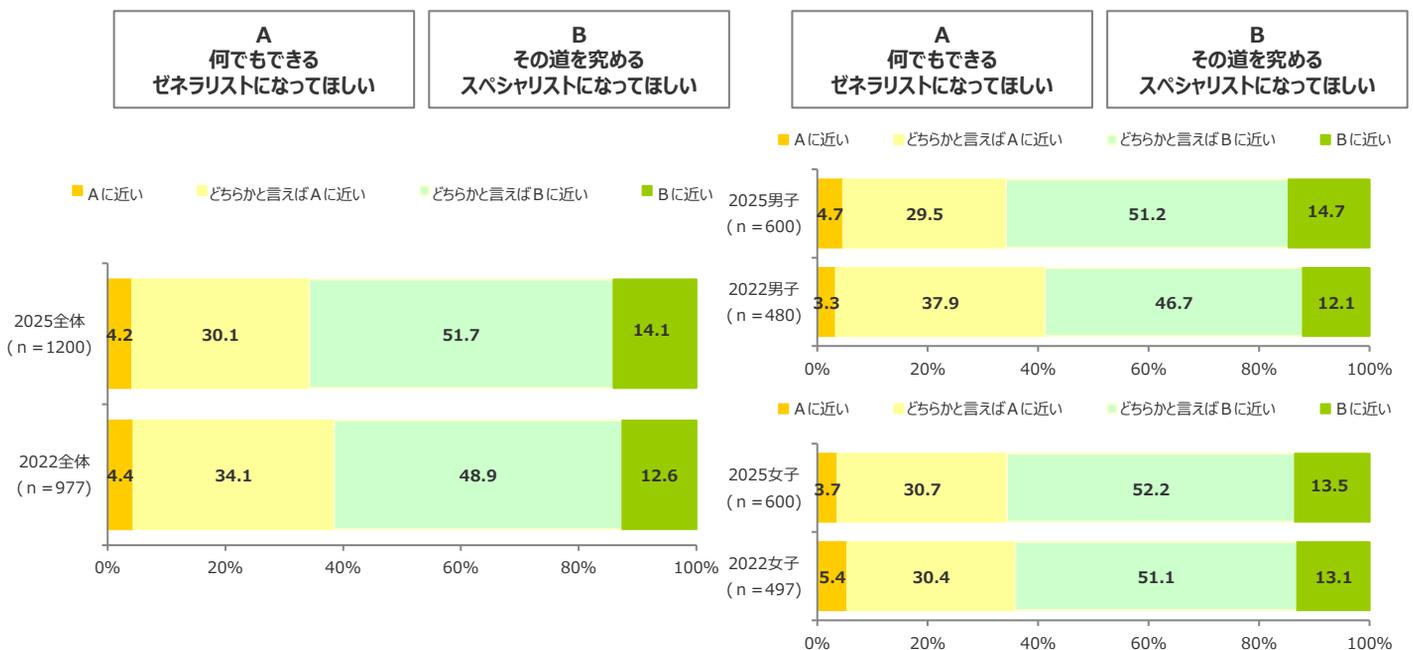
子供の性別で見ると、子供に「その道を探めるスペシャリストになってほしい・計」と考えている親は、男子で65.9%、女子で65.7%とほとんど差がなかった。過去調査と比較すると、「その道を探めるスペシャリストになってほしい・計」は男子ではより顕著に増加傾向になっている（図11.2）。

回答者の性別で見ると、子供に「その道を探めるスペシャリストになってほしい・計」と考えているのは、男性（父親）が63.0%、女性（母親）が68.5%となり、母親の方が父親よりも回答割合が5.5ポイント高い（図11.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせで見ると、子供に「その道を探めるスペシャリストになってほしい・計」と考えているのは、「女性／子供男子」が71.6%と最も多く、次いで「男性／子供女子」が66.0%となっている（図11.4）。

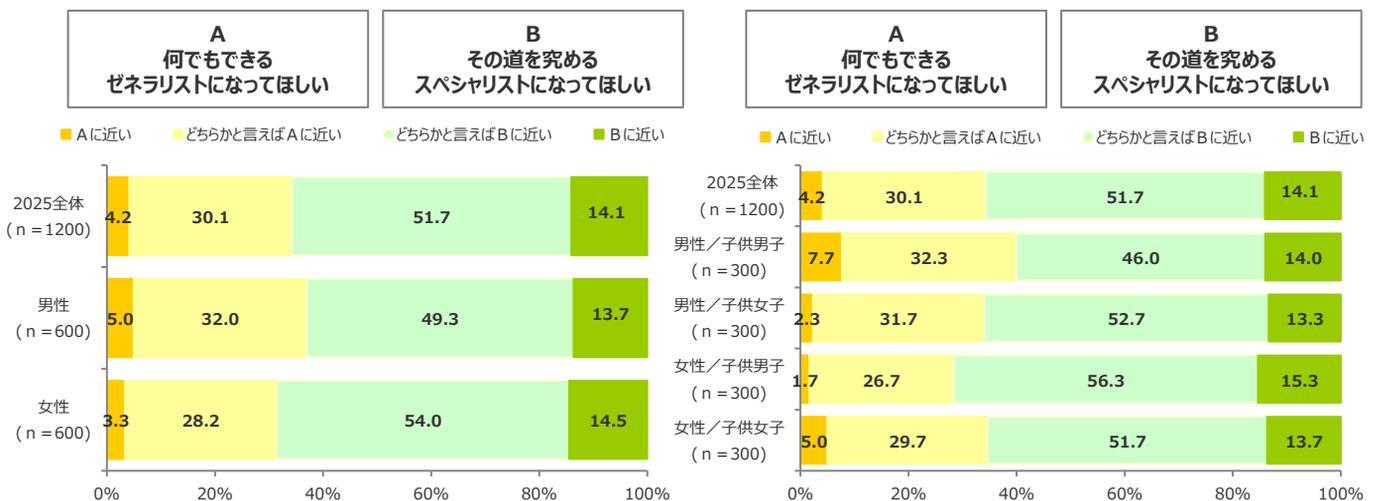
【図11.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
④ゼネラリストかスペシャリストか

【図11.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
④ゼネラリストかスペシャリストか：子供性別・過去調査比較



【図11.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
④ゼネラリストかスペシャリストか：回答者性別

【図11.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
④ゼネラリストかスペシャリストか：回答者性別×子供性別



子供の進路選択や働き方に対する考え⑤労働時間と収入について

労働時間が長く収入が多い仕事か 収入は少ないが労働時間が短い仕事か

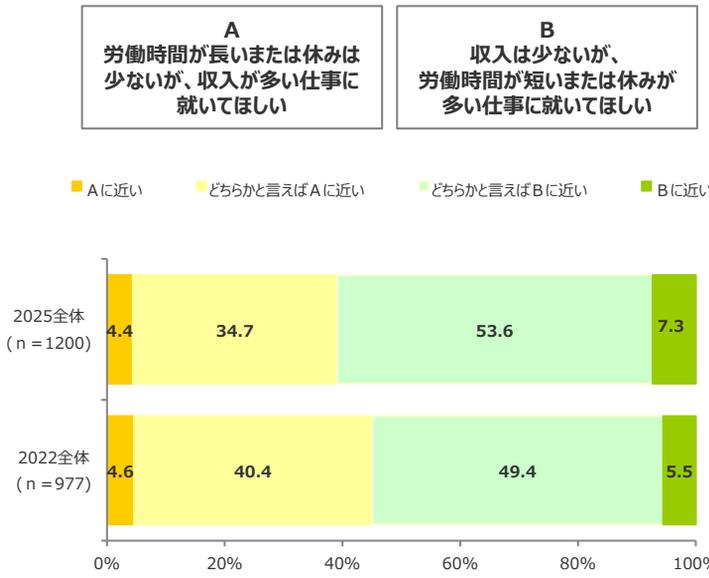
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、労働時間と収入について「労働時間が長いまたは休みは少ないが、収入が多い仕事に就いてほしい」のか「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」のかを聞いたところ、「どちらかと言えば収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」53.6%、「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい」7.3%を合わせた「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい・計」が60.9%となった。2022年調査54.9%よりも6.0ポイント増加している（図12.1）。

子供の性別でみると、子供に「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい・計」と考えている親は、男子で56.8%、女子で65.0%となり、女子の方が8.2ポイント高い。過去調査と比較すると、「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい・計」は女子で顕著に増加傾向になっている（図12.2）。

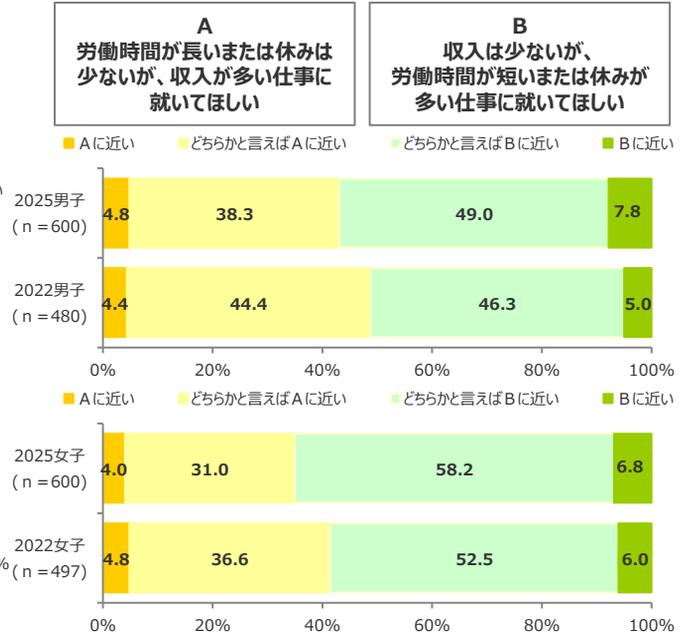
回答者の性別でみると、子供に「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい・計」と考えているのは、男性（父親）が61.5%、女性（母親）が60.3%でほとんど差はない（図12.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供に「収入は少ないが、労働時間が短いまたは休みが多い仕事に就いてほしい・計」と考えている親は、「男性/子供女子」が67.0%と最も多く、次いで「女性/子供女子」が63.0%となっている。

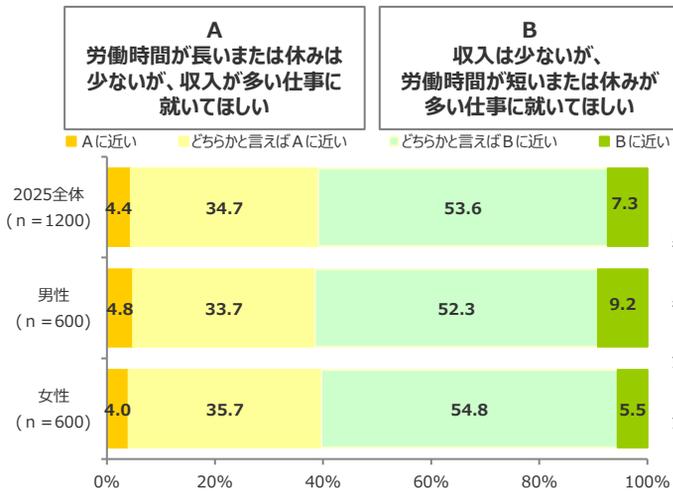
【図12.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑤労働時間が長く収入が多い仕事か
収入は少ないが労働時間が短い仕事か



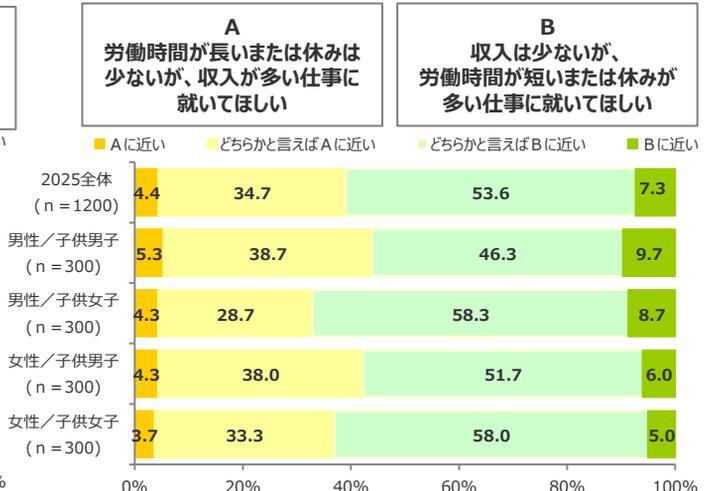
【図12.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑤労働時間が長く収入が多い仕事か
収入は少ないが労働時間が短い仕事か：子供性別・過去調査比較



【図12.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑤労働時間が長く収入が多い仕事か
収入は少ないが労働時間が短い仕事か：回答者性別



【図12.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑤労働時間が長く収入が多い仕事か
収入は少ないが労働時間が短い仕事か：回答者性別×子供性別



子供の進路選択や働き方に対する考え⑥転職について すぐに転職しても構わないか ある程度の期間は働き続けるべきか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、転職について「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」のか「自分に合わない仕事であっても、ある程度の期間は働き続けてほしい」のかを聞いたところ、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」11.8%、「どちらかと言えば自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない」43.3%、「どちらかと言えば自分に合わない仕事であっても、ある程度の期間は働き続けてほしい」39.7%、「自分に合わない仕事であっても、ある程度の期間は働き続けてほしい」5.3%となった。「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない・計（どちらかと言えば含む／以下同）」は55.1%で、過去調査と比較すると、2022年調査50.9%より4.2ポイント増加している（図13.1）。

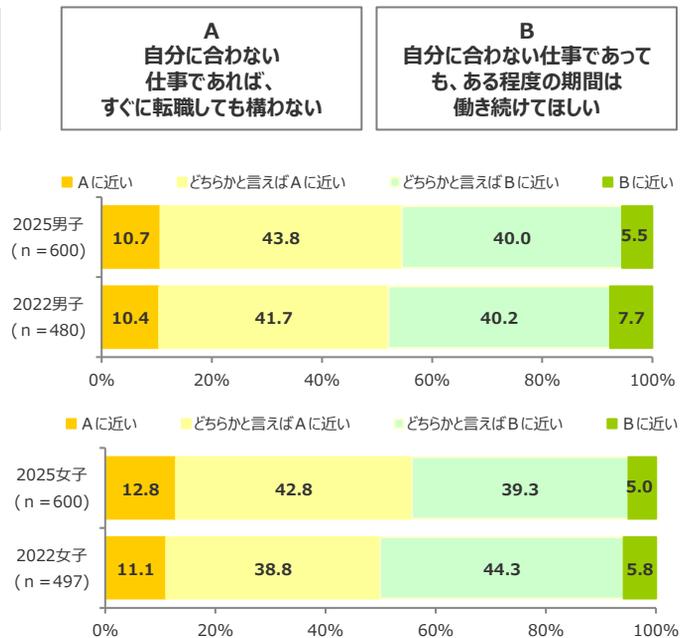
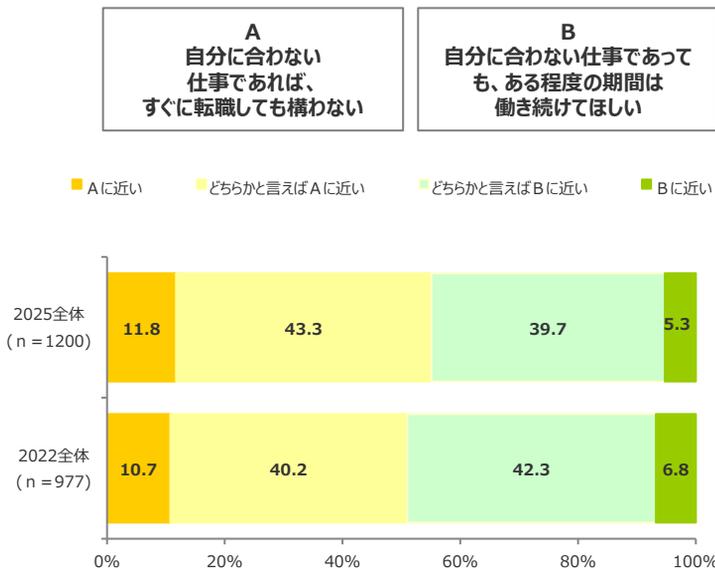
子供の性別でみると、子供に「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない・計」と考えている親は、男子で54.5%、女子で55.6%とほとんど差がなかった。過去調査と比較すると、「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない・計」は男子、女子ともに増加傾向になっている（図13.2）。

回答者の性別でみると、子供に「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない・計」と考えている親は、男性（父親）が55.7%、女性（母親）が54.5%でほとんど差はない（図13.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供に「自分に合わない仕事であれば、すぐに転職しても構わない・計」と考えている親は、「男性／子供女子」が56.3%と最も高いものの、他の組み合わせと大きな差はなかった（図13.4）。

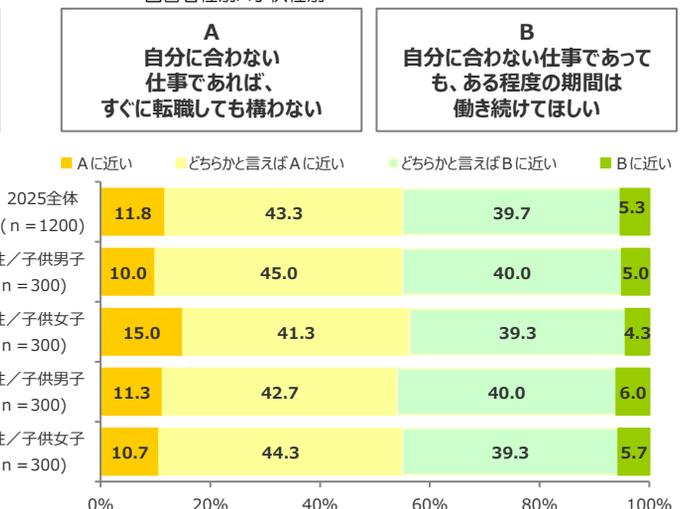
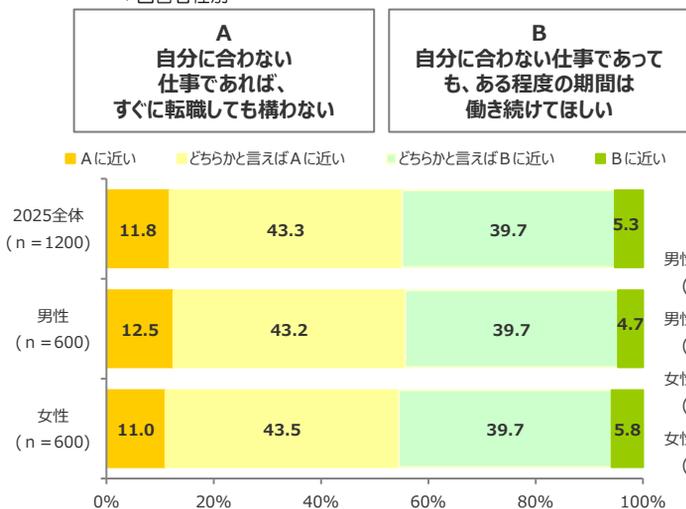
【図13.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑥すぐに転職しても構わないかある程度の期間は働き続けるべきか

【図13.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑥すぐに転職しても構わないかある程度の期間は働き続けるべきか
：子供性別・過去調査比較



【図13.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑥すぐに転職しても構わないかある程度の期間は働き続けるべきか
：回答者性別

【図13.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑥すぐに転職しても構わないかある程度の期間は働き続けるべきか
：回答者性別×子供性別



社会的地位の高さを気にするか

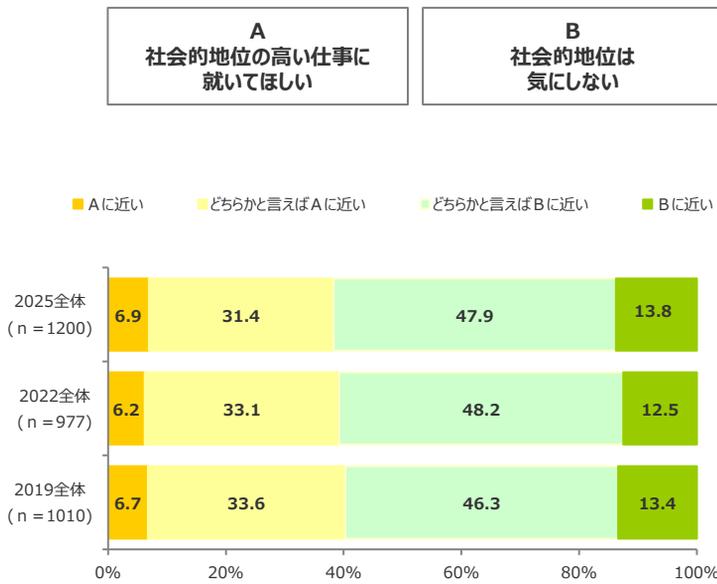
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、社会的地位について「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」のか「社会的地位は気にしない」のかを聞いたところ、「社会的地位の高い仕事に就いてほしい」6.9%、「どちらかと言えば社会的地位の高い仕事に就いてほしい」31.4%、「どちらかと言えば社会的地位は気にしない」47.9%、「社会的地位は気にしない」13.8%となった。「社会的地位の高い仕事に就いてほしい・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が38.3%、「社会的地位は気にしない・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が61.7%であった。過去調査と比較すると、子供の「社会的地位は気にしない・計」は少しずつだが増加傾向である（図14.1）。

子供の性別でみると、子供の「社会的地位は気にしない・計」と考えている親は、男子で62.5%、女子で60.8%だった。過去調査と比較すると、「社会的地位は気にしない・計」は、男子では増加傾向だが、逆に女子では減少傾向となり、傾向が異なっている（図14.2）。

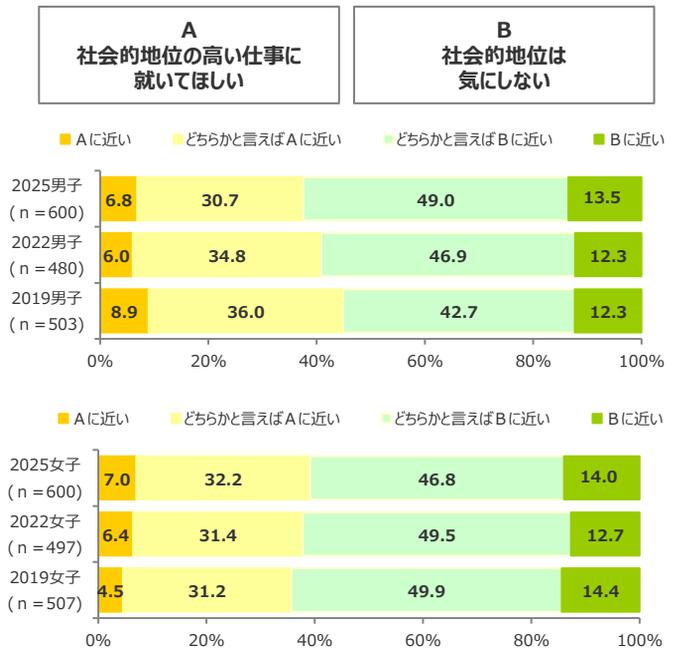
回答者の性別でみると、子供の「社会的地位は気にしない・計」と考えているのは、男性（父親）が59.6%、女性（母親）が63.7%となり、母親の方が父親よりも回答割合が4.1ポイント高い（図14.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供に「社会的地位は気にしない・計」と考えている親は、「女性/子供男子」が68.7%と最も多く、次いで「男性/子供女子」が63.0%となっている（図14.4）。

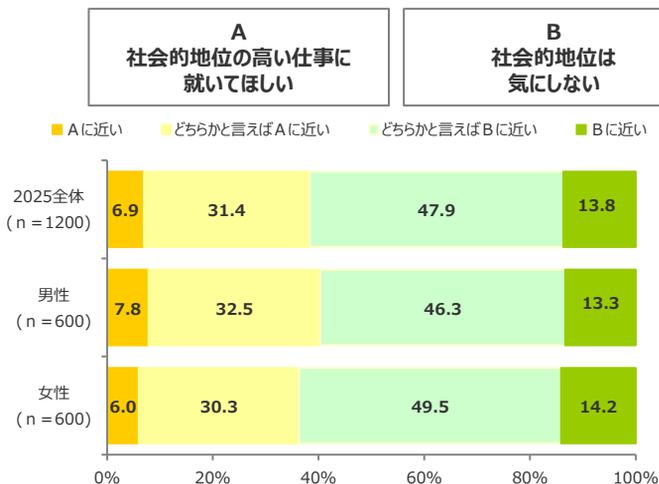
【図14.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑦社会的地位の高さを気にするか



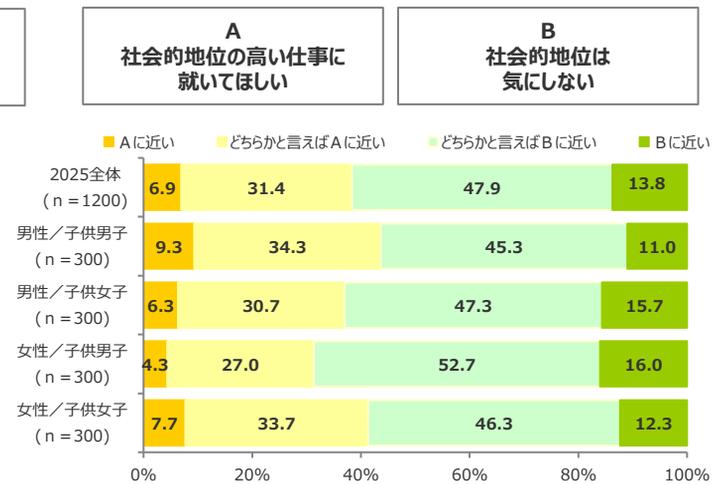
【図14.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑦社会的地位の高さを気にするか：子供性別・過去調査比較



【図14.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑦社会的地位の高さを気にするか：回答者性別



【図14.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑦社会的地位の高さを気にするか：回答者性別×子供性別



会社の知名度を気にするか

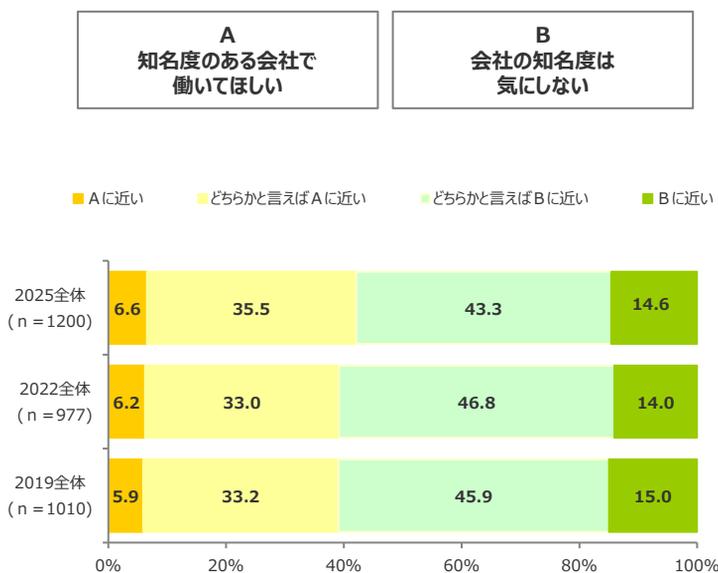
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、会社の知名度について「知名度のある会社で働いてほしい」のか「会社の知名度は気にしない」のかを聞いたところ、「知名度のある会社で働いてほしい」6.6%、「どちらかと言えば知名度のある会社で働いてほしい」35.5%、「どちらかと言えば会社の知名度は気にしない」43.3%、「会社の知名度は気にしない」14.6%となった。「知名度のある会社で働いてほしい・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が42.1%、「会社の知名度は気にしない・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が57.9%である。過去調査と比較すると、子供の「会社の知名度は気にしない・計」は少しずつだが減少傾向である（図15.1）。

子供の性別でみると、子供の「会社の知名度は気にしない・計」と考えている親の回答割合は、男子で58.4%、女子で57.5%とほとんど差がなかった。過去調査と比較すると、子供の「会社の知名度は気にしない・計」は男子、女子ともに減少傾向になっている（図15.2）。

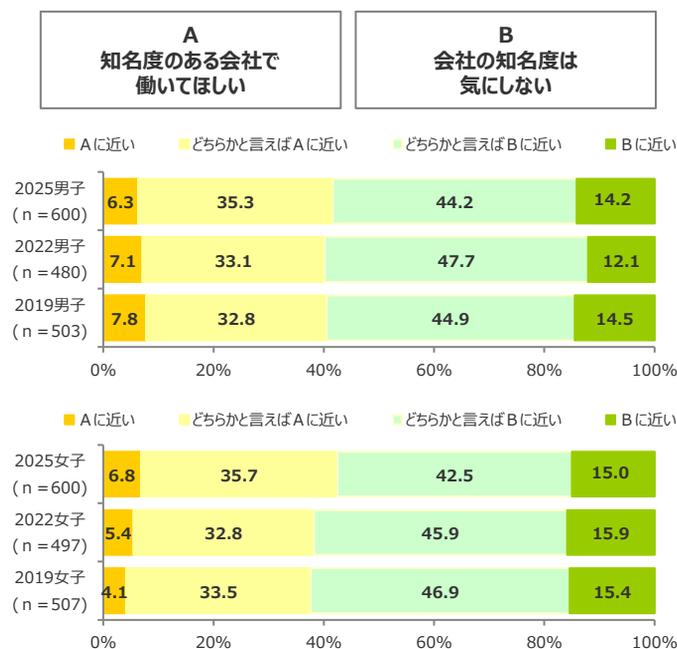
回答者の性別でみると、子供の「会社の知名度は気にしない・計」と考えているのは、男性（父親）が55.4%、女性（母親）が60.5%となり、母親の方が父親よりも5.1ポイント高くなっていった（図15.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供の「会社の知名度は気にしない・計」と考えている親は、「女性/子供男子」が63.3%と最も多く、次いで「女性/子供女子」が57.7%となっている（図15.4）。

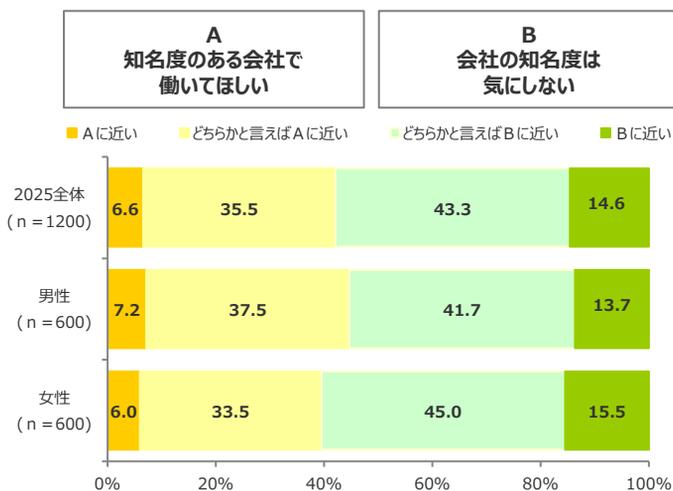
【図15.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑧会社の知名度を気にするか



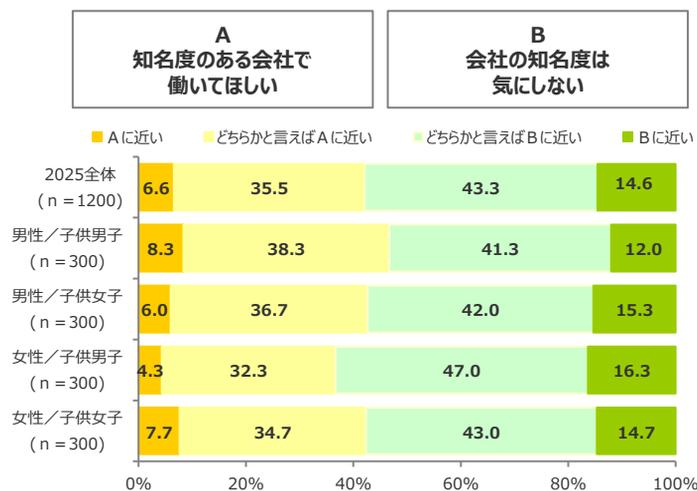
【図15.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑧会社の知名度を気にするか：子供性別・過去調査比較



【図15.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑧会社の知名度を気にするか：回答者性別



【図15.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑧会社の知名度を気にするか：回答者性別×子供性別



親元の近くで働いてほしいか

中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、勤務地について「親元の近くで働いてほしい」のか「勤務地は気にしない」のかを聞いたところ、「親元の近くで働いてほしい」9.4%、「どちらかと言えば親元の近くで働いてほしい」36.8%、「どちらかと言えば勤務地は気にしない」40.7%、「勤務地は気にしない」13.2%となった。「勤務地は気にしない・計（どちらかと言えば含む/以下同）」は53.9%で、過去調査と比較すると増加傾向にある（図16.1）。

子供の性別でみると、子供の「勤務地は気にしない・計」と考えている親の回答割合は、男子で57.0%、女子で50.6%と男子の方が6.4ポイント高くなった。過去調査と比較すると、子供の「勤務地は気にしない・計」は特に女子で顕著に増加傾向となっている（図16.2）。

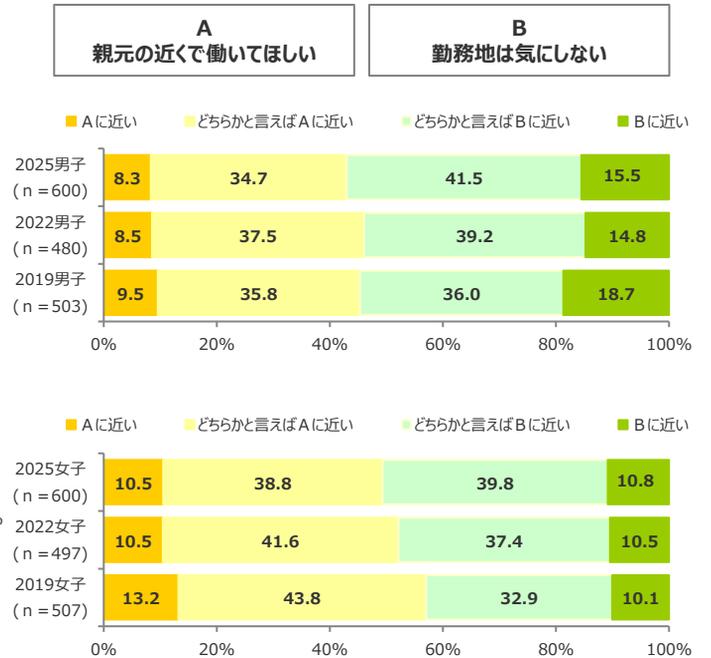
回答者の性別でみると、性別による回答の違いはほとんど見られなかった（図16.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供の「勤務地は気にしない・計」と考えている親は、「女性/子供男子」が58.6%と最も多く、次いで「男性/子供男子」が55.4%となっている（図16.4）。

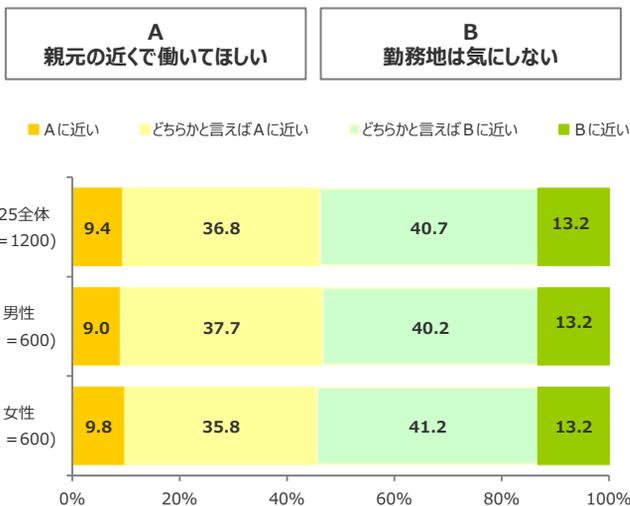
【図16.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑨親元の近くで働いてほしいか



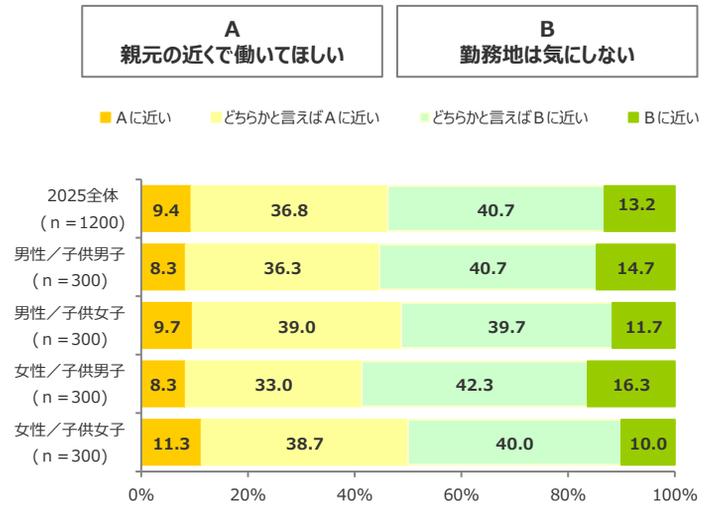
【図16.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑨親元の近くで働いてほしいか：子供性別・過去調査比較



【図16.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑨親元の近くで働いてほしいか：回答者性別



【図16.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑨親元の近くで働いてほしいか：回答者性別×子供性別



仕事優先か家庭優先か

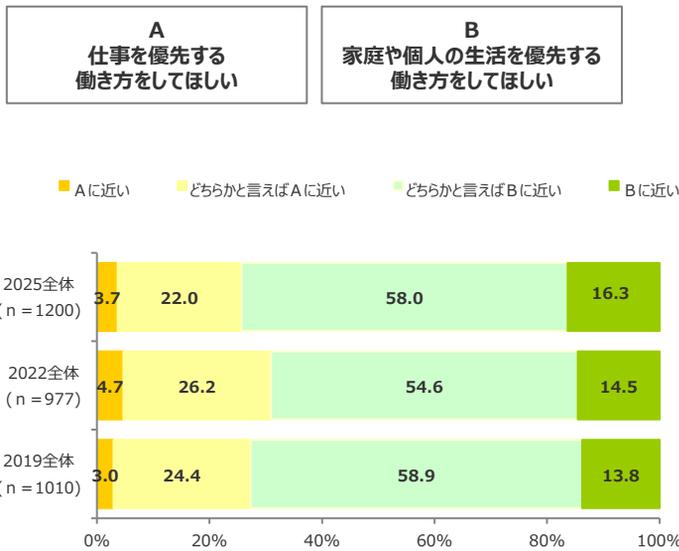
中学生の子供がいる男女に、子供の将来の進路選択や働き方に対する考えの一つとして、ワーク・ライフ・バランスについて「仕事を優先する働き方をしてほしい」のか「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」のかを聞いたところ、「仕事を優先する働き方をしてほしい」3.7%、「どちらかと言えば仕事を優先する働き方をしてほしい」22.0%、「どちらかと言えば家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」58.0%、「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい」16.3%となった。子供に「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい・計（どちらかと言えば含む/以下同）」は74.3%で、過去調査から概ね7割を維持している（図17.1）。

子供の性別でみると、子供に「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい・計」と考えている親は、男子で74.1%、女子で74.5%とほとんど差がなかった。過去調査と比較しても、子供の性別によって大きな差は見られない（図17.2）。

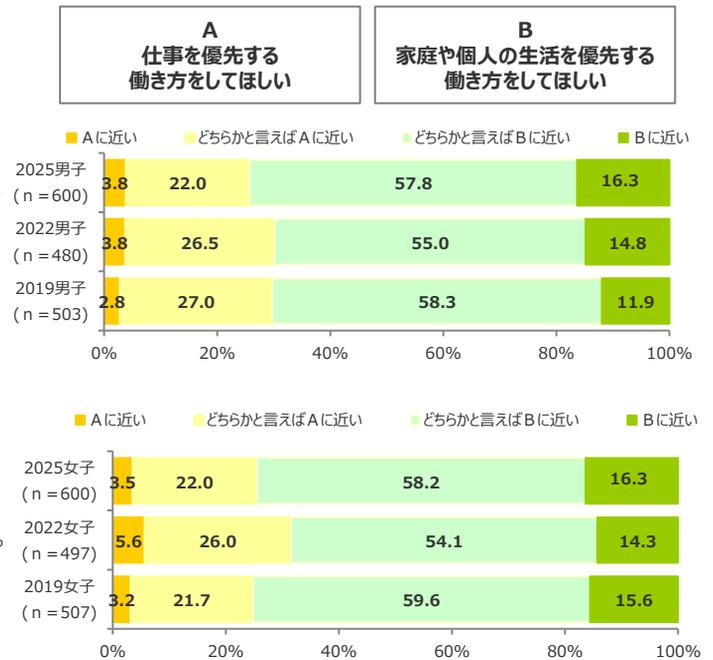
回答者の性別でみると、性別による回答の違いはほとんど見られない（図17.3）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供に「家庭や個人の生活を優先する働き方をしてほしい・計」と考えている親は、「女性/子供男子」が83.3%と最も高く、次いで「男性/子供女子」が76.4%となっている（図17.4）。

【図17.1】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑩仕事優先か家庭優先か



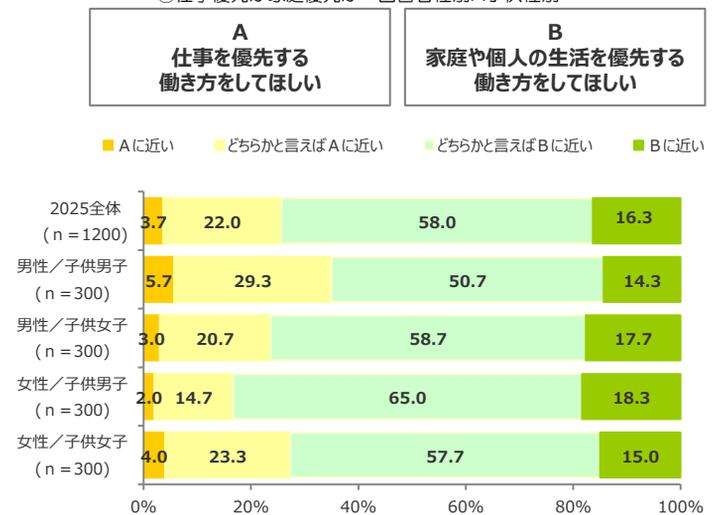
【図17.2】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑩仕事優先か家庭優先か：子供性別・過去調査比較



【図17.3】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑩仕事優先か家庭優先か：回答者性別



【図17.4】子供の進路選択や働き方に対する考え
⑩仕事優先か家庭優先か：回答者性別×子供性別

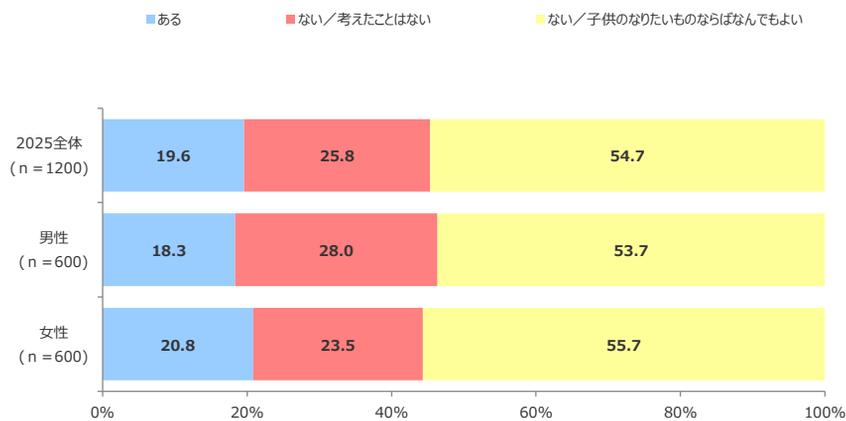


子供に将来なってもらいたい職業

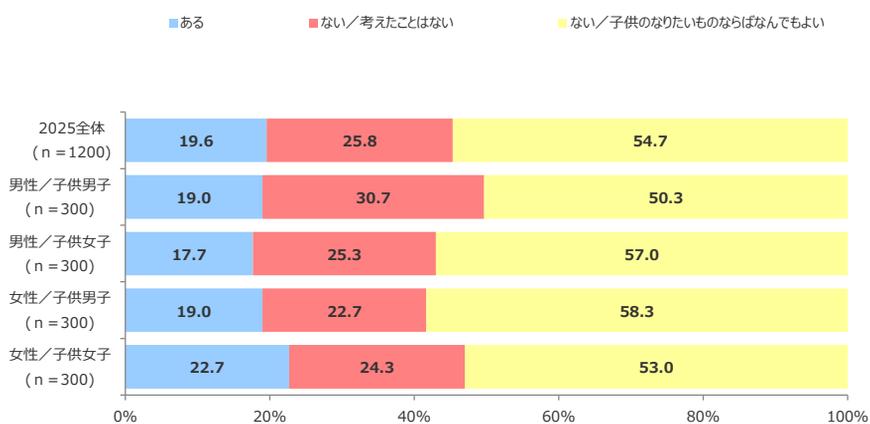
中学生の子供がいる男女に、子供に将来なってもらいたい職業はあるかを聞いた。「ない／子供のなりたいものならばなんでもよい」と考える親が54.7%と半数を超え、「ない／考えたことはない」の25.8%をあわせると「ない」が80.5%を占めている。一方、「ある」と回答した親は19.6%で、回答者の性別で見ると女性（母親）の方が若干割合が高くなっていった（図18.1）。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせで見ると、子供に将来なってもらいたい職業が「ある」という回答は、「女性／子供女子」において他の組み合わせよりも回答割合が高く、22.7%となっていた（図18.2）。

【図18.1】子供に将来なってもらいたい職業はあるか：回答者性別



【図18.2】子供に将来なってもらいたい職業はあるか：回答者性別×子供性別



子供に将来なってほしい職業が「ある」と回答した親に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。順位をみると、男子の親では1位「医者」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「弁護士・検事・裁判官」（表18.1）、女子の親では1位「看護師」、2位「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「医者」となっている（表18.2）。

総じて収入が高い医療系専門職や公務員など安定的な職業が上位を占めていた。

【表18.1】子供に将来なってほしい職業：男子ランキング上位

順位	中1-3男子 (n=114)	(%)
1	医者	11.4
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	9.6
3	弁護士・検事・裁判官	6.1
4	野球選手 会社員 ※銀行員・金融関連職除く	5.3

【表18.2】子供に将来なってほしい職業：女子ランキング上位

順位	中1-3女子 (n=121)	(%)
1	看護師	12.4
2	公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	11.6
3	医者	9.9
4	薬剤師	6.6
5	教師（小学校、中学校、高等学校）	5.0

子供の就業観や夢の選び方は変わったか

中学生の子供がいる男女に、中学生になった子供について、小学生の頃と比べて就業観や将来の夢の選び方が変わったかを聞いたところ、全体では「変わったと思う」12.3%、「どちらかと言えば変わったと思う」37.7%、「どちらかと言えば変わらないと思う」28.9%、「変わらないと思う」21.2%となった。「変わったと思う・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が50.0%、「変わらないと思う・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が50.1%である。2022年調査と比較すると、「変わったと思う・計」は2.7ポイント減少していた（図19.1）。

回答者の性別で2022年調査と比較すると、女性（母親）では「変わったと思う・計」が6.0ポイント減少していた（図19.2）。

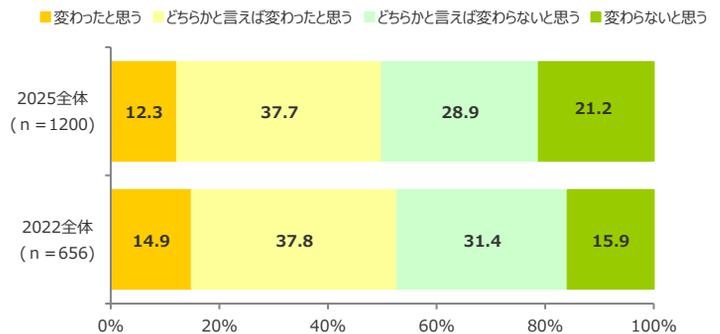
また、子供の性別で2022年調査と比較すると、「変わったと思う・計」は、男子、女子ともに減少していた（図19.3）。

なお、「変わったと思う」「どちらかと言えば変わったと思う」と回答した親に、具体的に変わったと思うことをフリーアンサーで回答してもらった。様々な回答があったが、「憧れや理想、実現度の低い夢から、現実的な夢に変化してきている」という書き込みが多く見られた。

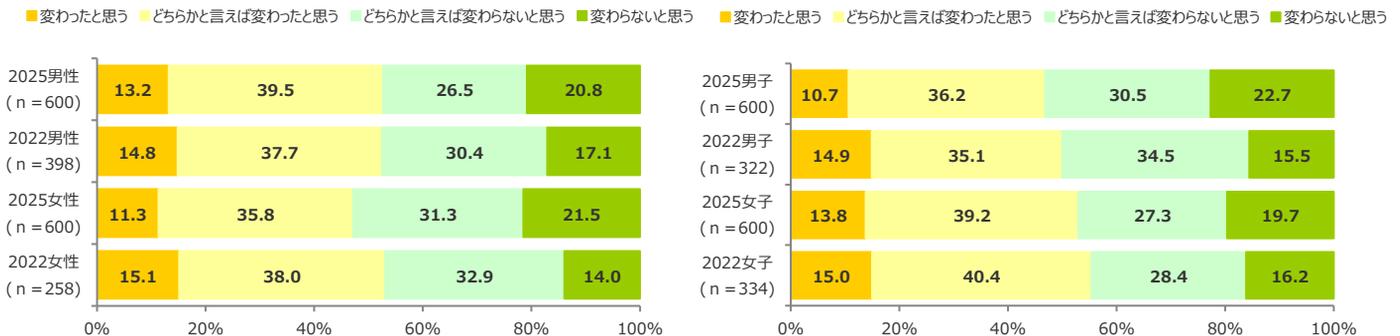
※2022年調査は、子供が中学2-3年生の対象者のみ聴取

【図19.2】就業観や夢の選び方は変わったか
：回答者性別・過去調査比較

【図19.1】就業観や夢の選び方は変わったか



【図19.3】就業観や夢の選び方は変わったか
：子供性別・過去調査比較



【就業観や夢の選び方で変わったこと／自由回答の一部】

- 小学校の時は、ありえない夢のような職業になりたいと言っていたが、最近は言わなくなって、親の仕事について質問するようになった。（50代父親／女子）
- プロ野球選手になりたいと言っていたが、努力やちょっとした才能だけではなれない厳しい世界だと理解したようで、最近はプロ野球に関わる仕事は何かを調べているようだから。（40代母親／男子）
- 自分の性格や成績を分析して分かるようになり現実的になった。（30代母親／女子）
- 自分の好きな興味の範囲が増えたが、それが必ずしも仕事に直結はしないという考えの発言をするようになった。（40代母親／女子）
- 小学生の頃はあまりはっきりとしたビジョンがなかったように思うが、今ははっきりとこのような職業につきたいと話すようになり、それに向けて一層勉強を頑張っているように見受けられる。（50代父親／男子）
- スマートフォンを支給したので得る情報が圧倒的に増えた。（40代父親／女子）
- 昔は知らなかった仕事を紹介されるようになり、○○になりたいというだけでなく、具体的にどんなスキルを活かす仕事をしたいか、考えやすく、見やすくなっていると思う。（40代母親／女子）
- 昔は憧れた職種に就きたいと言っていたが、最近は自分の向き不向きや、将来の安定性なども含めて職種を選んでいる。（30代母親／男子）

中学生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、現時点で子供に対するキャリア教育は必要だと思うかを聞いたところ、「必要である」19.8%、「どちらかと言えば必要である」56.2%、「どちらかと言えば必要ではない」16.7%、「必要ではない」7.3%となった。「必要である・計（どちらかと言えば含む/以下同）」が76.0%で4分の3を超えている。過去調査をみると、「必要である・計」は2019年調査で69.7%、2022年調査で77.2%と調査年によってばらつきがあるが、2025年調査は直近2022年調査と大きな変化は見られなかった（図20.1）。

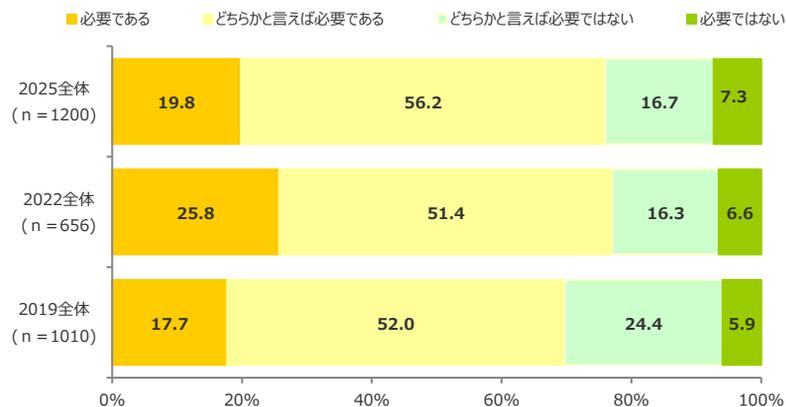
回答者の性別でみると、キャリア教育が「必要である・計」は、男性（父親）で69.3%、女性（母親）で82.6%となり、母親の方が13.3ポイント高くなっている。また、過去調査と比較すると、母親の「必要である・計」の回答割合は、増加傾向にある（図20.2、図20.3）。

子供の性別でみると、キャリア教育が「必要である・計」は、男子で78.0%、女子で74.0%となり、男子の方が4.0ポイント高くなっている。また、過去調査と比較すると、男子では、キャリア教育が「必要である・計」の回答割合が調査毎に増加していた（図20.4、図20.5）。

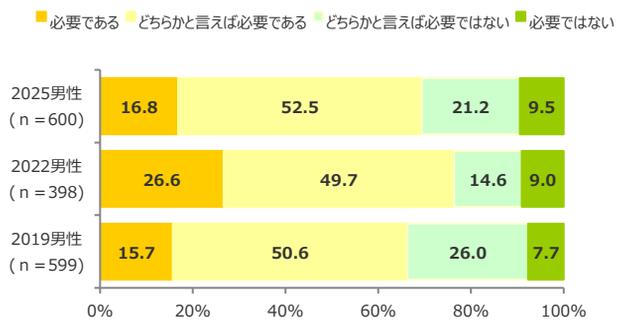
全体の8割弱の親が、中学生のうちからキャリア教育の必要性を感じていることがうかがえる結果となった。

※2022年調査は、子供が中学2-3年生の対象者のみ聴取

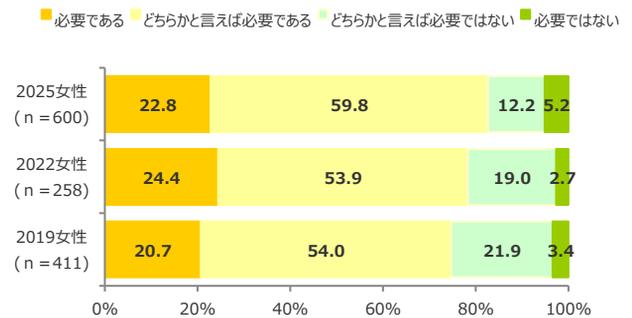
【図20.1】現時点でのキャリア教育の必要性



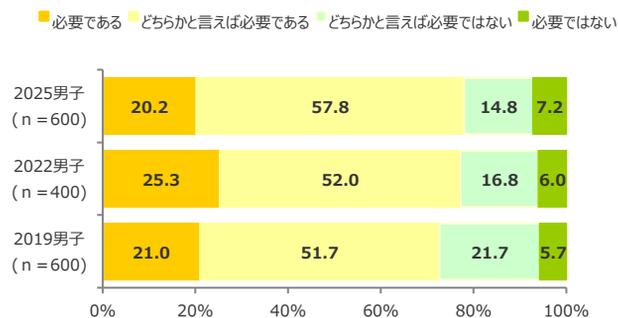
【図20.2】現時点でのキャリア教育の必要性：男性・過去調査比較



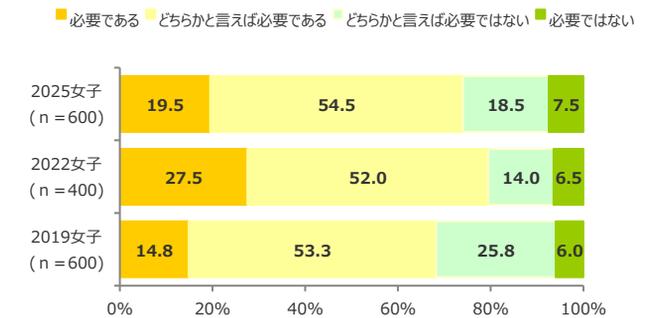
【図20.3】現時点でのキャリア教育の必要性：女性・過去調査比較



【図20.4】現時点でのキャリア教育の必要性：子供性別・過去調査比較



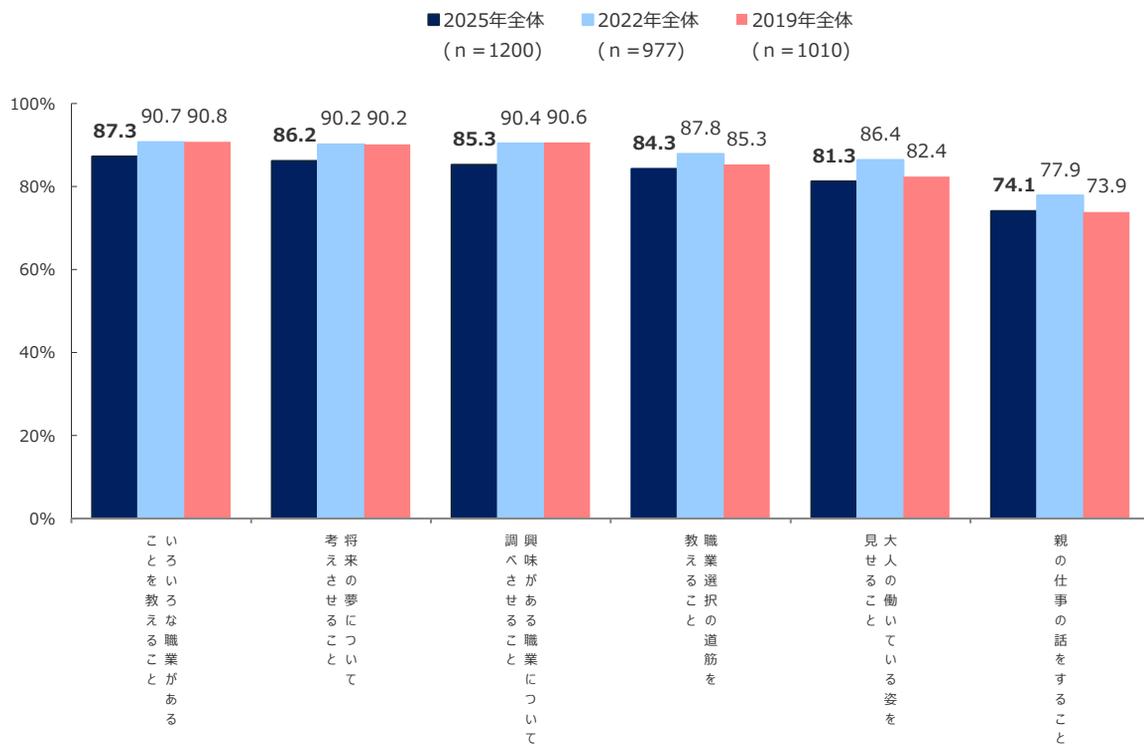
【図20.5】現時点でのキャリア教育の必要性：子供性別・過去調査比較



キャリア教育として有効なこと

中学生の子供がいる男女に、子供が将来より充実して働くために、キャリア教育として以下の6項目は有効だと思うかを聞いた。「有効である・計（どちらかと言えばを含む/以下同）」との回答は、「いろいろな職業があることを教えること」が87.3%と最も多く、次いで「将来の夢について考えさせること」86.2%、「興味がある職業について調べさせること」85.3%、「職業選択の道筋を教えること」84.3%、「大人の働いている姿を見せること」81.3%、「親の仕事の話をする事」74.1%の順であった（図21.1）。

【図21.1】キャリア教育として有効なこと：有効度順



「高校授業料無償化」による子供の進路への期待

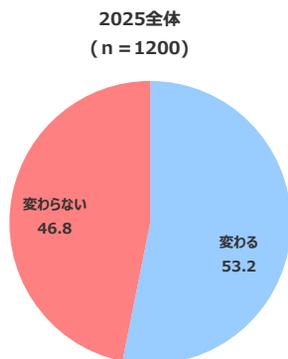
中学生の子供がいる男女に、昨今進められている「高等学校等の授業料無償化」の支援があることによって、子供の進路への期待が変わるかを聞いた。全体計では「変わる」が53.2%に上った(図22.1)。

回答者の性別でみると、高校授業料無償化によって子供の進路への期待が「変わる」との回答は、男性(父親)で48.8%、女性(母親)で57.5%となり、母親の方が8.7ポイント高くなった(図22.2)。

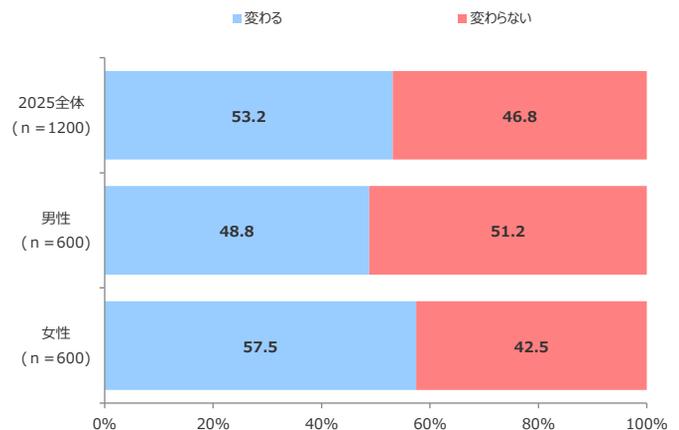
子供の性別でみると、子供の進路への期待が「変わる」は女子で若干割合が高いもののほとんど差はない(図22.3)。

回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、子供の進路への期待が「変わる」と考えているのは、「女性/子供女子」が59.3%と最も多く、次いで「女性/子供男子」が55.7%となっていた(図22.4)。

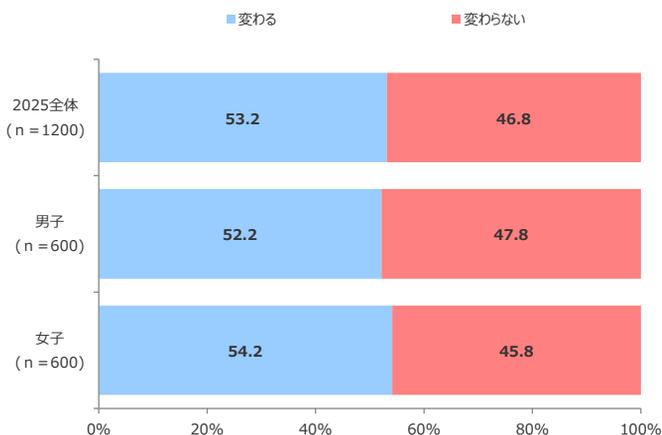
【図22.1】「高校授業料無償化」によって子供の進路への期待は変わるか



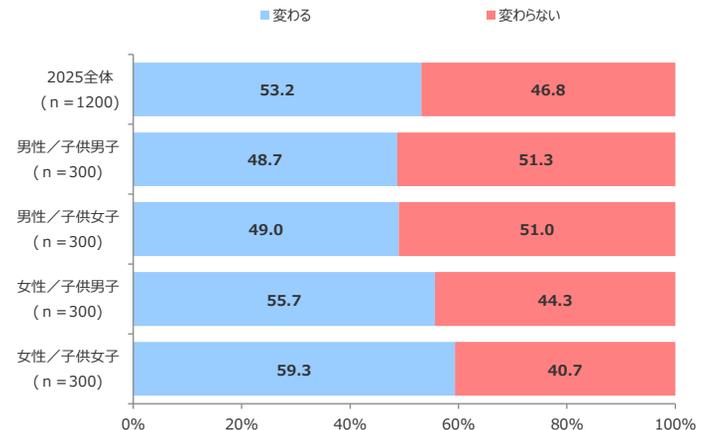
【図22.2】「高校授業料無償化」によって子供の進路への期待は変わるか：回答者性別



【図22.3】「高校授業料無償化」によって子供の進路への期待は変わるか：子供性別



【図22.4】「高校授業料無償化」によって子供の進路への期待は変わるか：回答者性別×子供性別

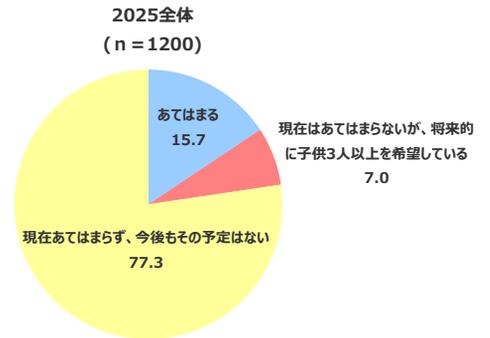


「大学授業料無償化」による子供の進路への期待

2025年度から多子世帯（子供3人以上）の学生等については、所得制限なく、大学等の授業料・入学金を国が定める一定額まで無償とする「大学授業料等無償化」が進められている。中学生の子供がいる男女に、「大学授業料等無償化」の支援があることによって、子供の進路への期待が変わるかを聞いた。

回答者のうち、現在、制度の対象に「あてはまる」世帯は15.7%、「現在はあてはまらないが、将来的に子供3人以上を希望している」世帯は7.0%で、対象となり得る世帯は合わせて22.7%だった（図23.1）。

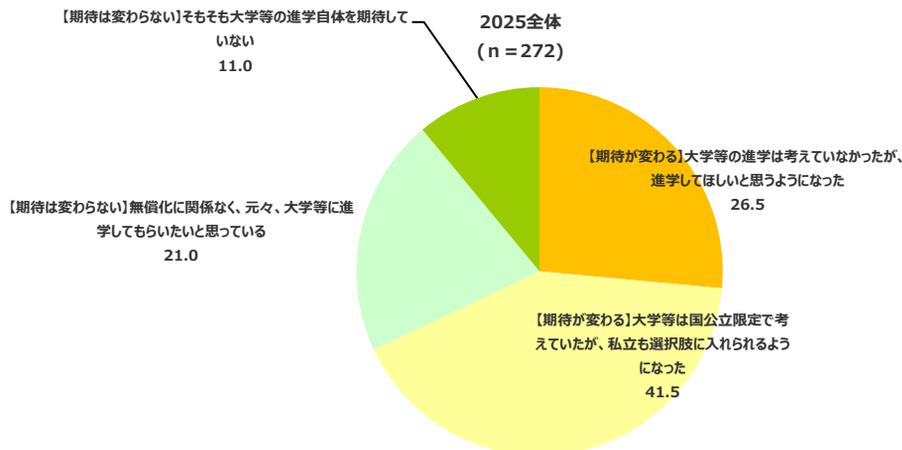
【図23.1】「大学授業料無償化」になり得る多子世帯か



「大学等授業料無償化」の対象となり得る回答者に、具体的にどのように期待が変わるのかを聞いた。「【期待が変わる】大学等の進学は考えていなかったが、進学してほしいと思うようになった」が26.5%となり、新たに進学希望者の掘り起こしにつながっている。また、「【期待が変わる】大学等は国公立限定で考えていたが、私立も選択肢に入れられるようになった」も41.5%と高く、元々進学希望だった家庭でも選択肢が広がっているようだ（図23.2）。

子供の性別、及び回答者の性別と子供の性別の組み合わせでみると、「【期待が変わる】大学等の進学は考えていなかったが、進学してほしいと思うようになった」の回答は女子と「女性/子供女子」が他と比べて割合が高くなっていった（図23.3）。

【図23.2】「大学授業料無償化」によって子供の進路への期待は変わるか



【図23.3】「大学授業料無償化」によって子供の進路への期待は変わるか：子供性別、回答者性別×子供性別

